

創立 70 周年 記念資料

令和 8 年 3 月

旭川市工芸センター

目 次

第1部 沿革 1 ~ 14

・あゆみ ・年表

第2部 現況 15

・組織 ・施設 ・主要設備

第3部 業績 16 ~ 38

・研究実験業務 ・製品開発状況 ・技術指導

・製造業実態調査 ・研修会、講習会等 ・展示会支援

・依頼業務、機械使用 ・技能五輪大会

第4部 職員の異動状況 39 ~ 42

第1部 沿革

1. 前史

(1) 市立産業指導所の設置

旭川市における木工芸、窯業振興は遠く大正の初期にさかのぼり、当時は「工業研修生」という制度のもとに木工業の子弟を本州先進地に派遣し、技術を習得させ業界の進歩改善を図った。

昭和12年市立産業指導所（所在地：現在の6条通9丁目右 OM07旭川by星野リゾート。主な事業は、木工、窯業、農産加工の各部門からなり、昭和18年に廃止された）の設置により業界の指導が積極的に行われ業界発展に多大の貢献を果たしたが、第2次世界大戦の末期におよんで総力を戦争に集中したため、廃止せざるを得なくなり、ここに本市としては木工業界の指導機関を失うことになった。

(2) 共同作業所の設置

終戦後の昭和23年10月、失業対策の一環として設置を見た共同作業所は（昭和5年から市立公益質屋として使用していた建物（80坪）を転用したもので、同28年8月組立工場（21坪）、更に31年4月事務室を増築）授産所的な役割を果たし木工技術を教えていた。

(3) 木工芸指導所への転換運動

これと相前後する昭和27年頃に、この共同作業所を木工芸指導所に転換させようとする運動が起こり、木工振興協力が「旭川木工集団の理論」の中でこの木工芸指導所構想を取り上げ、それまでの運動を一層強化して行った。

2. 旭川市木工芸指導所の設立

昭和30年3月、旭川共同作業所は一応初期の目的を達成したためこれを廃止し、同年4月念願の旭川市木工芸指導所の設立を実現させた。

このことと木工祭（昭和30年第1回木工祭は市民会館で開催中の旭川商工会議所主催の日光博覧会の会場の一部を使い7月15日から開催）の成功は木工業が旭川の基幹産業として重要な地位にあることを改めて認識させた。

(1) 新庁舎の落成並びに施設及び機械設備の充実

市立木工芸指導所は、旭川木工振興協力が（昭和29年10月4日創立）の強い要望もあって次第に整備され、昭和36年11月には旭川木工集団地区の

豊岡3条3丁目（旧東町3丁目）に新庁舎実験棟を新築移転した。

施設の概要として木材庫、木材乾燥室及び付帯設備、機械加工場、組立加工室、塗装室、接着室、研磨室などからなり、昭和37年に木材庫、同39年には試験室の増築をした。

一方機械設備として、昭和35年国庫補助により木材乾燥装置など13台を設置、更に本市は同38年通商産業省から家具装備品製造業に対し中小企業指導法に基づく政令指定市の指定を受け、技術指導施設費補助事業で機械設備として同年恒温恒湿設備など16台、同43年には、木材試験機など10台、更に同47年及び49年には試験機器など14台を設置するとともに、道費・市費による機械設備も約40台を数え、総数約80台の設備がなされた。

昭和47年には関連業界の御理解を得て、木工芸指導所管理棟（当時の豊岡木工集団地内）が新築（事務室、ショールーム、研修室、開放試験室など）された。更に同54年には所内にプロジェクトチームを編成し、業界の力強い発展と技術指導機関としての整備、充実の方向を明確にすべく、ビジョンの策定を行った。同55年度、57年度には国庫補助を受け、塗装機器設備、刃物研磨機器などと、科学的指導研究を行うための試験機器（研削動力測定器、形状表面アラサ測定器など15台）を整備し、指導体制の強化を図った。

(2) 窯業指導所の庁舎の落成と統合

一方窯業部門は、かつて産業指導所の一部門であったが、昭和21年1月1日旭川市窯業指導所として独立設置され、窯業業界の技術指導が再開された。

昭和24年窯業指導育成の強化を図るため、同指導所は常磐公園内に移転新築され施設設備の整備拡充がなされた。また同年4月には、道委託の窯業公共職業補導所が併設されたが、これは翌年3月2期生を卒業させて廃止された。その後常磐公園の整備が逐年進められ、施設も狭隘となったことから、同42年7月豊岡3条3丁目の木工芸指導所敷地内に移設された。同51年本市の機構改革により、木工・窯業の両部門が統合されて、名称が「木工芸指導所」から「工芸指導所」に改められ窯業部門は窯業係となった。更に同56年11月デザイン係と統合され開発研究係と改められた。

(3) 道立工業試験場旭川分室

昭和38年道立工業試験場においては、旭川市内及び道北地区の木製品企業の技術振興を図るとの目的から、木工芸指導所に工芸部の旭川分室を設置したが、同47年に至り、この目的が達せられたとして分室を廃止した。

(4) 第2次ソ連経済使節団に参加

ハバロフスク日本沿岸貿易見本市に出席する第2次ソ連経済使節団は、昭和45年7月4日旭川空港から出発、団長には市商工部長遠藤一成、木工芸指導所からはデザイン係長竹沢秀夫が団員として参加、木製品に関する資料の収集を行った。

(5) 指導所拡充用地の確保

指導事業の輻そうに伴い施設全体が狭隘となり、この拡充を図るための用地として、昭和46年11月隣接地1,421㎡を木材天然乾燥場として確保した。

(6) 旭川リサーチセンター内への移転

新技術・製品開発等の試験研究設備の充実を図るとともに、業界のあらゆるニーズに対応するため、最新鋭の木工・窯業機械等を導入し、関係業界が利用しやすい設備を充実し、平成8年4月15日に現在地の旭川リサーチセンター内へ移転入居した。さらに平成10年には「ものづくり試作開発支援センター設備事業」(国庫補助)により、電子機器等を利用した高機能な機械設備等の整備を図り現在に至る。

その間、平成9年12月1日には「旭川市工芸指導所」から「旭川市工芸センター」に改称した。

3. 年 表

工芸センター(工芸指導所)の歩み	年 号 (年度・西暦)	関係業界の歩み
<ul style="list-style-type: none"> 旭川市木工芸指導所開設。 初代所長 松倉定雄、事務関係4名、技術関係13名により指導業務スタート。 木工指導所運営推進員懇話会発足。 本市で産業工芸試験所主催のグッドデザイン展開催。 	昭和30年 (1955)	<ul style="list-style-type: none"> 旭川市木工芸指導所開設。 市立体育館にて「第1回旭川木工祭り」を開催(後の木工祭)。 「第1回全道家具建具展」開催。 「第1回全国優良家具展」(日本橋白木屋)にて熊坂工芸が入賞。
<ul style="list-style-type: none"> 技術職員2名採用し、技術関係の強化が計られる。 木工芸指導所の充実強化につき業界代表20余名、市に陳情。 	昭和31年 (1956)	<ul style="list-style-type: none"> 「旭川物産展」開催(札幌)。家具建具が好評を博す。 旭川建具事業協同組合設立。 あさひかわ陶芸会7月発足、9月に第1回会員展開催。
<ul style="list-style-type: none"> 国立研究機関主催の技術研修へ職員派遣。 公設研究機関の研究発表会に参加(仙台)。 	昭和32年 (1957)	<ul style="list-style-type: none"> 旭川家具建具工業連合会発足。 旭川建具移出事業協同組合設立。 旭川家具建具連合会理事長に野田正光氏が就任。 (社)旭川郷土民芸土産品協会設立。 旭川木工集団建設事業協同組合設立。 旭川家具工業協同組合設立。
<ul style="list-style-type: none"> 指導所の機構改革により事務係、技術係の2係とする。 全国初めての木工集団が東町3丁目(現在の豊岡3、4条3、4丁目)に造成。 板東国光(陶光)が旭川文化奨励賞を受賞。 	昭和33年 (1958)	<ul style="list-style-type: none"> 「第1回旭川郷土特産土産品展」開催(旭川市役所)。 北海道工業試験場の窯業分室を工芸部より分離、野幌窯業分場として発足。

<ul style="list-style-type: none"> ・指導所移転拡充のため、木工集団隣接地に用地買収（4,575.89㎡）。 ・千葉大学工業短期大学部木材工芸科より夏期実習生を受入れ。 	<p>昭和34年 (1959)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「第1回北海道特産旭川家具建具東北見本市」開催（仙台市）。 ・旭川民芸土産品研究会設立。 ・旭川木工集団地へ移転開始（8社）。
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度買収した用地に木工芸指導所庁舎6月に着工、11月に実験棟782.1㎡と木材乾燥室63.52㎡が完成。 ・第1回技術指導施設費補助事業費1,119万円で機械設備を設置（13台）。 ・技術職員6名が技術係に採用され、技術関係の強化が計られる。 ・旭川市窯業指導所所長に板東国光（陶光）が就任（昭和35.4.1～昭和46.3.31）。 	<p>昭和35年 (1960)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川家具建具共同職業訓練所設置。 ・旭川建具移出事業協同組合、仙台に建具組立工場を建設。
<ul style="list-style-type: none"> ・木工芸指導所5月に移転を開始し6月完了、8月落成式を挙行。 ・技術職員4名が技術係に採用され、更に強化が計られる。 ・業界中堅技術者と当所職員によるデザイン研究会が発足。 	<p>昭和36年 (1961)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川家具事業協同組合設立、理事長に末永与吉郎氏が就任。 ・旭川建具事業協同組合設立、理事長に小林一二氏が就任。 ・熊坂工芸(株)吹上御殿に衝立献上。 ・「第1回木彫り熊彫りコンクール」開催。 ※第2回以降「旭川木彫コンクール」、11回以降「旭川木彫技能競技会」と名称変更し昭和61年まで開催。 ・旭川木工集団地の造成・移転ほぼ完了（3年間で18企業移転完了）。
<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業団の公設試験研究機関対象の技術指導員養成研修に職員派遣。 ・道産小径木利用による、木材人工乾燥、ダボ構造、コッピングマシン利用による脚物家具の開発研究。 ・木材保管庫92.56㎡新築。 ・北海道家具建具工業協同組合連合会創立25周年記念式典にて、松倉所長が本道木工業界発展への功績により表彰される。 	<p>昭和37年 (1962)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道建具協議会設立。 ・旭川青年会議所、道北道東の市場調査結果を公表、旭川木工品のシェアが高いことが判明。 ・市の海外木工技術研修生として、小林正吾氏、川村勇氏、長原實氏を西ドイツに派遣。
<ul style="list-style-type: none"> ・通商産業省より、家具装備品製造業に対し中小企業指導法に基づいて政令指定市の指定を受ける。 ・第2回技術指導施設費補助事業費900万円で機械設備を設置（16台）。 ・道立工業試験場の旭川分室の指定を受ける（ワイドベルトサンダーなど4台設置）。 ・試験室の増築115.7㎡。 ・全国試験所作品展へ初参加。 ・板東国光が北海道第一期開発功労者（美術部門）で知事賞受賞。 	<p>昭和38年 (1963)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川共同職業訓練センター発足。 ・旭川木製品工業技術振興会設立。 ・旭川木製品工業技術振興会主催によるデザイン講習会を開催。

<ul style="list-style-type: none"> ・組立金具（埋込み有刺丸ナット）実用新案の登録申請が受理される。 ・木製品業界中堅幹部従業員による、デザイン加工技術、塗装技術研究会を発足。 ・「全国木工技術講習会」開催（木工芸指導所、道立林産試験場等）。 	<p>昭和39年 (1964)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川地方広葉樹事業協同組合設立。 ・新作展関連事業としてデザイン及び塗装技術講習会を開催。 ・「第10回全国優良家具展」にて上川木工が内閣総理大臣賞を受賞。 ・道立旭川職業訓練所新庁舎落成。
<ul style="list-style-type: none"> ・創立10周年を迎える。 ・木製品業界中堅幹部と当所職員による技術向上のため対話会を発足。 ・海外木工技術研修（西ドイツ）に当所職員を3年間派遣。 	<p>昭和40年 (1965)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川アイヌ民芸品販売店協会設立。 ・西永山工業団地造成計画を発表。 ・旭川木工振興協力会長に岡音清次郎氏が就任。 ・旭川建具事業協同組合理事長に三浦富蔵氏が就任。
<ul style="list-style-type: none"> ・ロクロ技術導入のため、当所職員を先進地に派遣研修。 ・木材乾燥用ボイラーの熱管理合理化及び安全管理向上により、旭川地方労働基準協会から表彰を受ける。 	<p>昭和41年 (1966)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協同組合旭川木工センター設立（永山木工団地）。 ・海外の木工業界視察（ヨーロッパ、ソ連、上原、伊羅子両氏）。
<ul style="list-style-type: none"> ・技術部門の機構改革により、デザイン係、加工技術係の2係となる。 ・木製品業界の若年従業員を対象に技術研修会を開催。 ・第2代目所長として商工部長大方美正が兼務発令される（昭和42. 11. 1～昭和43. 4. 30）。 ・旭川窯業指導所が豊岡3条3丁目の工芸指導所敷地内に移転。 	<p>昭和42年 (1967)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「第16回技能五輪国際大会」に桑原義彦氏（山際家具）が出場し2位入賞。 ・永山木工団地第1期工事着工、完成。 ・北海道郷土民芸品生産者協会設立。 ・遠藤乾蔵氏が北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・第3代目所長として商工部長遠藤一成が兼務発令される（昭和43. 5. 1～昭和44. 1. 13）。 ・第3回技術指導施設費補助事業費600万円で機械設備を設置（10台）。 ・コロンボ計画により海外研修生（シンガポール、2名）を受入れ。 ・木工芸指導所運営委員会が設置される。 ・第4代目所長に工藤富雄が就任（昭和44. 1. 14～昭和47. 4. 30）。 	<p>昭和43年 (1968)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川木工集団地10周年記念式典開催。 ・西ドイツに海外木工技術研修生2名派遣（野原寿二氏、阿部松夫氏）。 ・平塚賢智氏が北海道産業貢献賞を受賞。 ・北海道陶芸会が発足、初代会長に山岡三秋氏が就任。
<ul style="list-style-type: none"> ・旭川家具事業協同組合より、設備資金として113万円寄附を受ける。 ・初代所長松倉定雄が北海道産業貢献賞を受賞。 ・デザイン部門の技術指導のため、森谷延周氏に委嘱。 	<p>昭和44年 (1969)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「第18回技能五輪国際大会」に吉田幸男氏（山室木工）が出場し5位入賞。 ・協同組合旭川木工センター落成。 ・民芸木彫永年勤続優良従業員表彰制度発足。 ・西永山木工集団地完成。 ・「企業集団の倫理」出版（北島吉光氏が百瀬恵夫氏と共著）。 ・旭川民芸クラフト研究会設立。 ・「旭川木工史」刊行。

<ul style="list-style-type: none"> ・ハバロフスク経済視察団に当所職員竹沢秀夫が参加し、木製品関係資料の収集を行う。 ・中小企業団技術研修所の開催する事例研修に参加。 ・初代所長松倉定雄が卓越技能者労働大臣賞を受賞（工芸部門）。 ・長期巡回技術指導及び木製品業界の実態調査を開始（家具・建具・民芸）。 ・デザイン部門の技術指導のため、川上信二氏、今井慈氏に委嘱。 	<p>昭和45年 (1970)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「第1回旭川秀作民芸品展」開催（東京松坂屋）。 ・東海大学工芸短期大学建設に着工。 ・旭川民芸品振興連合会設立、会長に平塚賢智氏が就任。 ・「第14回全国優良家具展」に旭川から8社出展し全社入賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・木工芸指導所敷地拡充のため隣接地1,421㎡を買収する。 ・デザイン部門の技術指導のため、川上信二氏に委嘱（昭和51年度まで継続）。 ・板東国光（陶光）が旭川文化勲章を受賞。 ・旭川市窯業指導所所長に高橋武志が就任（昭和46.4.1～昭和48.3.31）。 	<p>昭和46年 (1971)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「第17回木工祭」開催。拓銀会場を一般向け、市立体育館を本州向け会場として開催。 ・岡音清次郎氏、斉藤文雄氏が北海道産業貢献賞を受賞。 ・小野寺五郎氏が北海道産業貢献賞を受賞。 ・大和正幸氏が全国推奨観光土産品審査会（工芸の部）通産大臣賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・第4回技術指導施設費補助事業費678万円で機械設備設置。 ・旭川木工芸指導所落成。 ・第5代目所長に松木喜一郎が就任（昭和47.5.1～昭和48.4.30）。 ・道立工業試験場旭川分室の廃止。 ・「全国公設試験研究機関工芸連合部会」が開催される。 	<p>昭和47年 (1972)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東海大学工芸短期大学開校（昭和52年から北海道東海大学芸術工学部、平成20年から東海大学芸術工学部となり、平成25年度末に閉鎖）。 ・「旭川工芸展」開催（そごう神戸店）。 ・「第18回全国優良家具展」において上川木工が名誉総裁賞を受賞。 ・多田博一氏、荒城良雄氏、三浦富蔵氏が北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・第5回技術指導施設費補助事業費740万円で機械設備を設置（2装置）。 ・第6代目所長に浅香隆平が就任（昭和48.5.1～昭和51.4.30）。 ・「第19回木工祭」に参考出品した居間セット（エゾ松）が注目を受ける。 	<p>昭和48年 (1973)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「第22回技能五輪国際大会」に大門巖氏（山際家具）が出場し3位入賞。 ・「第1回旭川家具東京フェスティバル」開催（台東館）。 ・「第1回旭川家具大阪見本市」開催（OMMビル）。 ・井上秀一氏が北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・旭川市主催による「第1回旭川の物産と観光ハワイ展」を開催（ホノルル市）。木製家具、民芸木彫品を出品。 ・窯業部門の技術指導のため吉田時彦氏に委嘱。 ・木製玩具実用新案を登録出願する。 	<p>昭和49年 (1974)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川木工振興協力が20周年記念式典を開催。 ・旭川郷土民芸品生産者協同組合設立。 ・平塚賢智氏が「現代の名工百人」に選ばれ、労働大臣表彰を受ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・創立20周年を迎え、記念誌を発行。 ・「旭川の物産と観光ハワイ展」、「アメリカ家具ショー」の視察に当所職員2名派遣。 ・「旭川デザインシンポジウム」開催に向け事務局業務を実施。 	<p>昭和50年 (1975)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国優良家具展」開催（札幌）。 ・「アメリカ家具ショー」に経済視察団派遣。 ・旭川家具事業協同組合内に、貿易部会設置。 ・「旭川デザインシンポジウム」開催。 ・「第1回全国優良木工機械展」開催（札幌）。 ・川上実氏が北海道産業貢献賞を受賞。

<ul style="list-style-type: none"> 木工芸指導所と窯業指導所が統合し「工芸指導所」に改称。 第7代目所長に西野重夫が就任（昭和51. 5. 1～昭和56. 10. 21）。 輸出旭川家具品質基準の基礎資料を作成。 	<p>昭和51年 (1976)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 木製建具分離発注事業始める（道営住宅）。 「アメリカ家具ショー」に7社出品。 鈴木竜一氏、北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> チュニジア駐日大使来所。 当所嘱託デザイナー川上信二氏に代って秋岡芳夫氏に委嘱（昭和62年度まで継続）。 	<p>昭和52年 (1977)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旭川家具工業協同組合事務所開き。 家具業界において構造改善事業に着手（45社）。 「第26回技能五輪国際大会」に管野峰夫氏（山際家具）が出場し第6位入賞。 木製建具分離発注事業始める（市営住宅）。 東海大学工芸短期大学が北海道東海大学芸術学部昇格。 佐藤正実氏が北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> 使用料及び手数料を改正。 田中宏幸が市優良職員表彰受賞。 初代所長松倉定雄が勲六等単光旭日章を受章。 	<p>昭和53年 (1978)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「第1回旭川窯元陶芸秀作展」開催。 岡音清次郎氏が勲五等瑞宝章を受章。 旭川木工振興協会会長に大津忠雄氏が就任。 北海道家具、サンフランシスコに出品（旭川8社、札幌2社）。 長原實氏が（社）日本インテリアデザイナー協会より1978年度協会賞を受賞。 熊坂公成氏、中町繁氏が北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> 市機構改革により所長補佐制を設ける。 工芸指導所の現状と展望（ビジョン）を作成。 	<p>昭和54年 (1979)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旭川家具事業協同組合理事長に島口八百美氏が就任。 サンフランシスコに家具常設展示場を開設。 「第1回東京国際家具見本市」開催。旭川から7社出品。 田村常七氏が北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> 第6回技術指導施設費補助事業費839万円で機械設備を設置（11台）。 中島進が北海道技能検定協会永年の功績により会長賞を受賞。 「旭川やきもの史」刊行。 	<p>昭和55年 (1980)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旭川家具開発センター落成（永山2-10）。 旭川建具事業協同組合理事長に小林正吾氏が就任。 平塚賢智氏が旭川市文化奨励賞を受賞。 山室胤氏が勲五等瑞宝章を受章。
<ul style="list-style-type: none"> 市機構改革により、副所長制となり係名も変更される。 事務分掌の変更により、展示会、見本市等の開催業務が当所所管となる。 第8代目所長に中島進が就任（昭和56. 10. 22～平成5. 3. 31）。 	<p>昭和56年 (1981)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地方産業デザイン開発推進事業の指定を受ける（木製家具）。 旭川建具事業協同組合出資金の増資（1,500万円）。 「地場資源活用調査報告書」作成。 「第1回旭川家具木美会」開催。 「第1回旭川家具春の見本市」開催。 旭川家具デザイン開発研究会設立。 関口勇氏が北海道産業貢献賞を受賞。

<ul style="list-style-type: none"> ・第7回技術指導施設費補助事業費1,002万円で機械設備を設置（4台）。 ・中国黒龍江省対外科学技術調査団一行来所。 	<p>昭和57年 (1982)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川地区産業デザイン開発推進事業の展開。 ・島口八百美氏、山口武三氏が北海道産業貢献賞を受賞。 ・「技能五輪国際親善大会」に福島克定氏（山際家具）が出演。
<ul style="list-style-type: none"> ・渡辺昇、関谷武が「ミニフィンガー接合法」により、(社)日本木材加工技術協会から木材加工技術賞を受賞。 ・国際協力事業団の要請により海外研修生（パラグアイ、1名）を受入れ。 	<p>昭和58年 (1983)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「第1回北国の創作家具展」開催。 ・旭川新人奨励賞技術部門で福島克定氏（匠工芸）が受賞。 ・旭川陶芸協会設立。 ・旭川地区産業デザイン開発推進事業が成功裏に終わる。 ・「東京国際家具見本市」視察のフィンランド視察団一行が来旭、旭川家具業界と交流。 ・北島吉光氏が北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・渡辺昇、関谷武が市優良職員表彰を受賞。 	<p>昭和59年 (1984)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川家具事業協同組合解散し、旭川家具工業協同組合に一本化される。 ・旭川商品開発研究会が北海道東海大学教授鈴木庄吾氏をアドバイザーに迎えて発足。 ・渡部虎蔵氏が北海道産業貢献賞を受賞。 ・長原實氏が第12回国井喜太郎産業工芸賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・創立30周年を迎え、記念誌を発行。 ・中小企業庁の技術指導費補助により、機械設備の拡充を図る（2装置）。 ・学校用家具の開発に取り組む。 	<p>昭和60年 (1985)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回旭川木工センター「家具の祭典」開催。 ・「北の手仕事展」開催（旭川西武）。 ・「旭川家具工業の課題と提言」出版（鈴木庄吾氏監修）。 ・岡音忠一氏が北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・木の高度利用推進研究会設立。 ・木の高度利用推進研究会報告提言。 	<p>昭和61年 (1986)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業大学旭川校開校。 ・平塚賢智氏が春の叙勲で黄綬褒章を受章。 ・「第1回旭川の木彫と工芸展」開催。 ・佐藤賢一氏、戸田秀国氏が北海道産業貢献賞を受賞。 ・島口八百美氏が「現代の名工百人」に選ばれ、労働大臣表彰を受ける。 ・「旭川国際デザインフォーラム」開催。 ・(協)旭川木工センターが創立20周年記念式典を開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・輸出デザイン検査認定代行を旭川市が受託。 ・中小企業庁の技術指導費補助によりCAD/CAMシステムを導入。 ・国際協力事業団の要請により海外研修生（パラグアイ、1名）を受入れ。 ・デザイン部門の技術指導のため、納賀雄嗣氏に委嘱（昭和63年度まで継続）。 	<p>昭和62年 (1987)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「技能五輪国際大会」に小林守氏（匠工芸）が出演し7位入賞。 ・「箱で考えるーあそびの木箱'87展」開催（旭川美術館）。 ・旭川家具商品開発研究会が地方振興奨励道費補助を受けたAV機器収納ファニチャーの研究成果を発表。 ・「旭川木のクラフト展」開催（丸善日本橋店）。 ・西脇伸一氏、富田和信氏、飛弾野芳世氏が北海道産業貢献賞を受賞。

<ul style="list-style-type: none"> ・当所試作品を広く市民に販売。 ・高齢者用家具の開発を開始。 ・CAD関係の技術開発に取り組む。 ・デザイン部門の技術指導のため、神戸憲治氏に委嘱（～平成8年度）。 	昭和63年 (1988)	<ul style="list-style-type: none"> ・「MAKROS' 88北海道家具展」開催（大雪アリーナ）。 ・北島吉光氏が北海道新聞文化賞を受賞。 ・「国際デザインフォーラム旭川' 88 SPIRIT OF DESIGN」開催（インテリアセンター本社）。 ・旭川工芸デザイン協会設立。 ・小林正吾氏が北海道産業貢献賞を受賞。 ・旭川木工集団事業（協）が創立30周年記念式典を開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者用家具の試作品を木工祭に参考出品し、注目を集める。 ・市の機構改革に伴い、事業係・技術係・開発研究係の3係から事業係と技術開発係の2係制となる。 	平成元年 (1989)	<ul style="list-style-type: none"> ・「旭川工芸デザイン協会設立展」開催（旭川西武）。 ・「サマーエンドフェスティバル」開催（道立林産試験場）。 ・菊池務氏が北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・建具技術の小物生産物への利用研究を開始。 ・デザインフェアにおいて「在来技術と先端技術」「クラフトマンシップ」等をテーマに参考展示。 	平成2年 (1990)	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際家具デザインフェア旭川' 90」開催（第1回）。 ・「旭川' 90クラフト展」開催。 ・三浦富蔵氏が秋の叙勲で黄綬褒章を受章。
<ul style="list-style-type: none"> ・'90国際家具デザインコンペの入賞作品を当所に常設展示。 ・家具強度試験器を導入。 ・業界の意見を聞く会を開催。 ・溶射技術の活用研究を開始。 	平成3年 (1991)	<ul style="list-style-type: none"> ・「旭川家具5・5計画」発信。 ・頭脳立地構想推進地域として旭川が指定を受ける。 ・織田コレクション「チェアーズギャラリー」開設。 ・横幕誉氏が北海道産業貢献賞を受賞。 ・平塚賢智氏が勲六等瑞宝章を受章。
<ul style="list-style-type: none"> ・室内木製建具の気密性に関する研究を開始。 ・中小企業庁の技術指導施設費補助によりCAD/CAMシステムの増強とCGシステムを導入。 	平成4年 (1992)	<ul style="list-style-type: none"> ・「デザインワークショップ成果報告会」開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・木製家具品質基準作成委員会が旭川で開催される。 ・デザインフェアにおいて北海道東海大学、旭川家具商品開発研究会とともに参考出品。 ・特定中小企業集積活性化支援事業（関連機関支援事業）が開始される。 ・第9代目所長に植山尚有が就任（平成5. 4. 1～平成7. 3. 31）。 	平成5年 (1993)	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川家具工業協同組合オフィス部会、ヨーロッパ先進国視察。 ・「国際家具デザインフェア旭川' 93」開催（第2回）。 ・「旭川' 93クラフト展」開催。 ・特定中小企業集積活性化支援事業開始。 ・島口八百美氏が勲六等瑞宝章を受章。
<ul style="list-style-type: none"> ・道内施設、設備の調査を実施。 	平成6年 (1994)	<ul style="list-style-type: none"> ・「旭川家具活性化セミナー」開催。 ・ノックダウン研究会にて講習会開催。 ・「東川町開拓100年記念陶芸展」開催。 ・長原實氏が北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・創立40周年を迎える。 ・第10代目所長に九軒勝志が就任（平成7. 4. 1～平成10. 3. 31）。 ・北海道地域工業技術開放試験施設整備事業 	平成7年 (1995)	<ul style="list-style-type: none"> ・「道北陶芸フェスティバル」開催。 ・旭川家具工業協同組合主催により家具の耐震安全性に関する講習会を開催。

<p>費補助により、試験機器の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工芸指導所、機器充実し旭川リサーチセンター内へ移転、業務開始。 ・「国際家具デザインフェア旭川'96」コンペティション応募作品「HAT BENCH」入選。 ・及川俊樹が市優良職員表彰を受賞。 ・北海道地域工業技術開放試験施設整備事業費補助により、試験機器の充実を図る。 ・道内窯業原料調査（十勝地区粘土）（～平成9年度）。 ・木村正紀氏が中小企業長官賞を受賞。 	<p>平成8年 (1996)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川産業高度化センタービルオープン。 ・「国際家具デザインフェア旭川'96」開催（第3回）。 ・「旭川'96クラフト展」開催。 ・「'96あさひかわ工業展」開催。 ・道立旭川高等技術専門学院が西神楽4-5（現緑が丘東3条2丁目）に新築落成と創立50周年を迎える。 ・笹原竹一氏が北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・名称を「旭川市工芸センター」に改称。 ・空間の有効利用家具開発の研修会を開催。 ・ガラスカレットの利用研究（技術動向・資料収集調査）。 ・橋本高知県知事来所。 	<p>平成9年 (1997)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインギャラリー開設。「北の風南の風クラフト展'97」開催。 ・旭川やきもの協会設立。 ・「第1回旭川陶芸フェスティバル」開催。 ・澤田富治氏が北海道産業貢献賞を受賞。 ・「技能五輪国際大会」に井上勝人氏（有山田工作所）が出演。
<ul style="list-style-type: none"> ・第11代目所長に岩田和視が就任（平成10.4.1～平成14.3.31）。 ・「製品開発への光造形技術応用研修会」開催。 ・「新JIS規格に準拠した椅子の強度試験方法研修会」開催。 ・ものづくり試作開発支援センター設備事業により高度な試作・研究開発に利用できる設備・装置類を整備（炭酸ガスレーザー彫刻システム、ワイドベルトサンダー他6設備）。 	<p>平成10年 (1998)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「旭川のクラフト展」開催（日本橋高島屋）。 ・「木のグランドフェア」開催（道立林産試験場）。 ・織田憲嗣氏の椅子常設展示場をデザインギャラリーで開設。
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に導入した炭酸ガスレーザー彫刻システムの利活用研修会を開催。 ・「光造形システム利活用研修会」開催。 ・堀北海道知事来所。 	<p>平成11年 (1999)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際家具デザインフェア旭川'99」開催（第4回）。 ・「東京インターナショナル・ギフト・ショー」に出展（旭川クラフト企業10社）。 ・「木彫り熊源流展」開催。道内の名作150点を展示（デザインギャラリー）。 ・（株）インテリアセンター（現、（株）キャンディハウス）が国土庁から地域活性化貢献企業賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・「光造形技術研究会セミナー」開催。 ・「炭酸ガスレーザー彫刻システム利活用研修会」を開催。 	<p>平成12年 (2000)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川家具単独で「旭川EVOLUTION2000in東京」を開催（大田区産業プラザ（20社））。 ・「旭川工芸デザイン協会展」開催（デザインギャラリー）。 ・「旭川匠の技工芸展」開催。 ・木材、家具業界不況深刻化閉業相次ぐ。 ・「第34回全国建具展示会」において旭川建具事業協同組合の「高齢者向け引戸建具」が優秀作品賞を受賞。

<ul style="list-style-type: none"> ・「化学物質過敏症講習会」開催（接着剤・塗装に含まれる有害物質）。 ・旭川クラフト業界の今後の方向性及び対策に関する報告会を開催。 	<p>平成13年 (2001)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川家具工業協同組合が「旭川家具経営塾」を開催。 ・「旭川工芸デザイン協会展in FUMIKI」（サンフランシスコ）初の海外展。 ・(株)匠工芸が家具シリーズ「ウィーヴ」でグッドデザイン賞を受賞。 ・旭川家具工業協同組合主催で、旭川家具、クラフトの展示会「旭川家具横浜展2001」を開催。 ・「技能五輪国際大会」に木村亮三氏（株インテリアアナス）が出席。
<ul style="list-style-type: none"> ・機構改革により「商工部工芸センター」から「商工観光部工芸センター」となる。 ・第12代目所長に山田克己が就任（平成14. 4. 1～平成22. 3. 31）。 ・耐圧分布測定システムを導入（特定中小企業集積活性化事業）。 ・マーケティングに関する研究。 ・国際協力事業団の依頼により国際研修生（マレーシア、1名）を約2ヶ月間受入れ。 	<p>平成14年 (2002)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際家具デザインフェア旭川2002」開催（第5回）。 ・北海道立北方建築総合研究所（旧寒地研）旭川市へ移転。 ・「ANIC旭川家具新作展」が50回目を迎える。 ・「こんな家具ほしいプロジェクト」による一般女性からの募集開始、試作品発表。
<ul style="list-style-type: none"> ・「旭川家具横浜展」において旭川家具のコーディネート展示を実施。 	<p>平成15年 (2003)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・改正建築基準法施行により、室内環境配慮で業界が統一表示を導入。 ・旭川家具工業協同組合（7社）が世界最大級家具見本市「ミラノ・サローネ」に初出展。
<ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発、既存商品のリ・デザイン等の新商品開発指導（小家具・小木工企業デザインパイロット事業）。 ・繰返し耐久性試験機の開発作製（JIS及び国内の家具関連各規格の扉・引出し等耐久性試験対応）及び説明会を実施。 	<p>平成16年 (2004)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「'04あさひかわ工業技術交流会」開催。 ・建具業界木の創造会（4社）による新商品開発発表「障子創造展」を開催。 ・「旭川家具木工祭MAKROS」が50回目を迎える。
<ul style="list-style-type: none"> ・創立50周年を迎え、記念誌を発行。 ・「旭川木彫りの源流展」開催。 ・技術開発係、一階事務室で執務開始。 	<p>平成17年 (2005)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際家具デザインフェア旭川2005」開催（第6回）。 ・「旭川クラフト展」開催。 ・「旭川工芸デザイン協会展」開催（横浜）。「インテリアフェスタ」（主催(株)カンディハウス横浜店）に協賛事業展示。 ・(社)全家工連主催で初の国産家具の主産地が集まり「につぼんらいふ展」を横浜で開催、旭川家具企業21社、建具企業4社出展。 ・「ケルン国際家具見本市」へ出展（10作品）。
<ul style="list-style-type: none"> ・使用料及び手数料を改定。 ・木工技術・技能の伝承、他業種との連携強化を図るため「ものづくり技術者育成事業」を実施（～平成22年度）。 ・3次元CAD/CAMシステムを更新。 	<p>平成18年 (2006)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川家具工業協同組合主催で、旭川家具単独による「旭川家具コレクション2006 TOKYO」を開催。 ・「ケルン国際家具見本市」へ出展（19作品） ・小家具・小木工品企業デザインパイロット事業で生まれた商品を中心とした「2006旭

		<ul style="list-style-type: none"> 川クラフト新商品開発事業報告展」を開催。 ・「旭川の工芸展in熊本」を開催。旭川地域のクラフト協会2団体と24企業出展。 ・「旭川陶芸フェスティバル」が10回目を迎える。 ・旭川木彫・工芸品協会設立。
<ul style="list-style-type: none"> ・旭川クラフトのブランド化に向けて「旭川クラフト改造計画協議会」を設立（地域資源∞全国展開プロジェクト）。 ・工芸センター主催により、旭川空港において建具と建具技術を使った木製品の展示会「旭川建具空港展」を開催（7社）。 	平成19年 (2007)	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川家具工業協同組合が、「旭川・家具づくりびと憲章」を制定。 ・「旭川家具木工祭MAKROS」が「旭川家具産地展」に改称。 ・旭川地域でクラフトを製作する若手10名により「mickle (ミクル)」が発足。旭川空港等でクラフト展を開催。 ・伝統的工芸品普及拡大事業の一環で、「旭川木彫・工芸品協会展」、「旭川木彫りの源流（旭川空港）、「伝統的工芸品展WAZA2008ふるさと工芸品展」に出展。 ・「技能五輪国際大会」に庄司卓磨氏（有インテリア北匠工房）が出場。
<ul style="list-style-type: none"> ・機構改革により「商工観光部工芸センター」から「経済観光部ものづくり推進室工芸センター」となる。 ・旭川クラフトのブランド化を目指し、「旭川工芸ブランド化事業」を実施。 ・木製玩具をPRするため、「北海道芸術教育研究会」及び旭川空港での展示会「サンタさんからのおくりもの」を開催。 	平成20年 (2008)	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際家具デザインフェア旭川2008」開催（第7回）。 ・北海道で22年ぶりとなる「全国建具展示会北海道・函館大会」開催。（有）杏和建具が北海道職業能力開発協会会長賞及び全国建具組合連合会会長賞を受賞。 ・旭川クラフト協議会が、旭川クラフトの情報発信のためウェブサイトを開設。
<ul style="list-style-type: none"> ・「つくる人」「かんがえる人」「うる人」「つたえる人」「つかう人」をつなぐ全国的なプロジェクト「旭川木工コミュニティキャンプ（AMCC）」を開始（～平成30年度）。 ・地域雇用創造推進事業で「インターン事業」、「専門加工技術者育成セミナー」を実施。 ・家具等インテリア関連産業グローバル人材育成事業による他産地研修の一環で、飛騨高山産地展や企業を視察。 	平成21年 (2009)	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川家具メーカー10社が、10年ぶりに「東京国際家具見本市（IFFT/インテリアライフリビング）」に出展。 ・旭川クラフト協議会が、産地の人材育成及び旭川のブランド化を推進するため、旭川クラフト・クリエイティブマーケティング事業を実施。 ・「技能五輪国際大会」に中島一樹氏（有ミツマサ）が出場。
<ul style="list-style-type: none"> ・第13代目所長に堀川邦男が就任（平成22. 4. 1～平成26. 3. 31）。 ・旭川クラフト活性化の取組として、海外展開に向けた販路開拓講習会を開催。 ・家具等インテリア関連産業グローバル人材育成事業による他産地研修の一環で、天童木工など山形県の企業を視察。 ・社会人対象のスキルアップ講座及び学生向けの技術研修講座を開設（東海大学に委託）。 	平成22年 (2010)	

<ul style="list-style-type: none"> ものづくり推進担当部長の配置及びものづくり推進室の廃止により「経済観光部工芸センター」となる。 技術技能の継承と人材育成を図るため、「旭川木工スクール事業」を開始。 	<p>平成23年 (2011)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「国際家具デザインフェア旭川2011」開催(第8回)。 第682回デザインギャラリー1953企画展「日本の地域産業の今vol.1旭川の木仕事」開催(松屋銀座)。 「技能五輪国際大会」に高橋誠弥氏(有)加藤木工)が会場。
<ul style="list-style-type: none"> 「クラフトマップ旭川」を発行。 旭川木工スクール事業において、市民を対象に木工場を巡るツアー「旭川木工体験の旅」を開催(～令和2年度)。 地元素材(剣淵粘土)の活用を目的とした窯業研修会を開催。 「家具品質試験マニュアル」の作成及び配布。 	<p>平成24年 (2012)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第35回北海道芸術教育研究会会場において木製玩具等の展示紹介「旭川生まれのおもちゃ展」を実施(11社1団体)。 吉本興業主催の「なんばグランド花月伝統工芸看板」において、旭川木彫・工芸品協会が大賞を受賞(掲示:平成25.4～6月)。 中川貞司氏が伝統的工芸品産業大賞(作り手部門・大賞)を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> 高校生を対象に、ものづくり体験を通して地域産業への理解を深めてもらうため「ものづくりサマーキャンプ」を開始(～令和元年度)。 地元素材(石狩川の川砂)の活用を目的とした窯業研修会を開催。 	<p>平成25年 (2013)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「技能五輪国際大会」に林香氏(株)カンディハウス)が会場。 菅野秀雄氏が伝統的工芸品産業大賞(作り手部門・功労賞)を受賞。 中川貞司氏が北海道産業貢献賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> 係を廃止しスタッフ制となる。 第14代目所長に鈴木三千仁が就任(平成26.4.1～平成27.3.31)。 「旭川市地酒の普及の促進に関する条例」の制定(平成25年)を受け、窯元を対象に日本酒と酒器に関する講演会を開催。 市民からの寄付の申出を受け、「幸せの椅子」を製作。 	<p>平成26年 (2014)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「旭川家具産地展」が60回目を迎え、「国際家具デザインフェア旭川2014」(第9回)と共催で実施。
<ul style="list-style-type: none"> 創立60周年を迎える。 第15代目所長に三浦雅仁が就任(平成27.4.1～平成30.3.31)。 北海道立総合研究機構林産試験場との共同研究により、シラカバ材の高付加価値用途への技術開発を実施(～平成29年度)。 冬休み期間中の小学3～6年生の児童とその保護者を対象に「親子木工体験教室」を実施(～令和元年度)。 	<p>平成27年 (2015)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「旭川家具産地展」が「旭川デザインウィーク」に改称。 「技能五輪国際大会」に大谷周平氏(株)プレステージジャパン)が会場。
<ul style="list-style-type: none"> 「国際家具デザインフェア旭川」コンペ入賞入選作品の試作。 IFDA記念制作展における展示品の試作。 材料強度試験機を更新。 	<p>平成28年 (2016)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「旭川陶芸フェスティバル」が第20回を迎える。 上山勇次氏が伝統的工芸品産業大賞(作り手部門・功労賞)を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> 「クラフトマップ旭川」をリニューアル。英語版も発行。 旭川地域の木製品製造業が、「地域未来投資促進法」に基づく基本計画(家具等製造分 	<p>平成29年 (2017)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「国際家具デザインフェア旭川2017」開催(第10回)。 旭川家具工業協同組合が、経産省の補助金を活用し「JAPANブランド育成支援事業」を

<p>野) の認定を受ける。</p>		<p>実施 (～令和元年度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「旭川クラフト展2017」開催。プロ枠20者に加え、新設したチャレンジ枠に20者が出展。 ・旭川市が「IFIインテリア宣言」を承認。 ・上西捷敏氏が伝統的工芸品産業大賞 (作り手部門・功労賞) を受賞。 ・「技能五輪国際大会」に下條恭平氏 (有ワカサ) が出場し敢闘賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・機構改革により「経済観光部工芸センター」から「経済部工芸センター」となる。 ・第16代目所長に有馬有志が就任 (平成30. 4. 1～平成31. 3. 31)。 ・工芸センターの事業や旭川家具の魅力を発信するため「あさひかわ出前講座」を開始。 ・旭川工芸技術等継承事業において「窯業実習コース」を新たに開催。 ・プログラム焼成装置付き上蓋式電気炉を導入。 	<p>平成30年 (2018)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JR旭川駅構内コンコースに「旭川家具ラウンジ」オープン。 ・「第1回木彫りの源流～旭川木彫・工芸品協会展」開催。
<ul style="list-style-type: none"> ・第17代目所長に鈴木三千仁が就任 (平成31. 4. 1～令和5. 3. 31)。 ・旭川家具PR映像プロジェクトにおいて、旭川工業高等学校放送局が旭川家具のPR映像を制作。 	<p>令和元年 (2019)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川市が「ユネスコ創造都市ネットワーク」にデザイン分野で加盟認定される。 ・映画「スター・ウォーズ/スカイウォーカーの夜明け」公開記念イベントにて、旭川木彫・工芸品協会製作の「等身大ストームトルーパー」が特別展示 (札幌・東京) ・高橋秀寿氏が北海道産業貢献賞を受賞。 ・「技能五輪国際大会」に山口智大氏 (株ガージーカムワークス) が出場し敢闘賞を受賞。 ・柏川法潤氏 (陶芸) が旭川市文化奨励賞を受賞。 ・国内で初の新型コロナウイルス感染症患者を確認。
<ul style="list-style-type: none"> ・使用料及び手数料を改定。 ・ポストコロナ社会を見据えた産地プロモーションと地場産業の活性化を目的として、「新生活様式に対応したクラフトコンペティション2020」を開催。 ・コロナによる販売機会の減少を受け、旭川工芸の情報発信のため「旭川工芸プロジェクトReBORN」を実施。 ・新しい生活様式に対応する商品の改良や試作等の相談に対応するため、レーザー加工機によるアクリルパネル加工の環境整備及び試作開発を実施。 	<p>令和2年 (2020)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政府が新型コロナウイルスに係る緊急事態宣言を発出。各種規制・制限等の実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・旭川市役所新庁舎の建設に伴い伐採されたポプラ材を活用し、部材試験や製品試作、 	<p>令和3年 (2021)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスに係る各種規制・制限等が継続。

<p>デザイン提案等を実施。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「国際家具デザインフェア旭川2021」開催（第11回）※新型コロナウイルスの影響により1年延期して開催。 ・高橋秀樹氏が春の叙勲で旭日双光章を受章。 ・旭川やきもの協会が北海道産業貢献賞（商工鉱業功労者）を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・道産材の更なる利用促進に向けた研究を行うため、「北海道広葉樹利用促進研究会」を発足。 ・新型コロナ交付金により恒温恒湿試験機を導入。 	<p>令和4年 (2022)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスに係る各種規制・制限等が継続。 ・「旭川デザインウィーク」が「Meet up Furniture Asahikawa」に改称。事業内において「第1回旭川木工技能競技大会」を開催。 ・旭川家具工業協同組合主催で、新型コロナウイルスにより減少した消費を拡大するため、「家具産地旭川展in羽田空港」を開催。 ・「技能五輪国際大会」に吉田理玖氏（株）プレステージジャパンが出演。
<ul style="list-style-type: none"> ・第18代目所長に内田和博が就任（令和5. 4. 1～現在に至る）。 ・製品強度試験機を増設、ブリケットマシンを更新。 ・木のモノ組合 50 周年記念展示会において、木工旋盤・ろくろの歴史を伝えるため「足踏み旋盤」の実演と体験会を実施。 	<p>令和5年 (2023)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスに係る各種規制・制限等の完全解除。 ・旭川デザインセンターが産業観光拠点としてリニューアル。 ・「旭川木のモノ組合50周年記念・・・クラフトの仲間たち」開催。 ・映画「ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー：VOLUME3」公開記念イベントにて、旭川木彫・工芸品協会製作の「等身大木彫りロケット」が特別展示（札幌）。 ・旭川市役所新庁舎オープン。議場や展望ラウンジなどに旭川家具を導入。 ・渡部直行氏が春の叙勲で旭日単光章を受章。 ・千尋悠子氏（陶芸）が旭川市文化賞を受賞。
<ul style="list-style-type: none"> ・木材資源を活用した木材産業の活性化を目指す事業を支援する「未来投資促進法（第2期）を策定し認定を受ける。 ・ウッディエイジ 4 月号（旭川家具における北海道産広葉樹の利用促進に向けて）及び 8 月号（木材・家具・建具を試験します）への寄稿。 	<p>令和6年 (2024)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「技能五輪国際大会」に渡部礼嗣氏（株）匠工芸が出演。
<ul style="list-style-type: none"> ・創立70周年を迎え、記念誌を発行。 ・創立70周年を記念し、「Meetup Furniture Asahikawa」関連企画としてオープンファクトリーを開催。 ・旭川市と音威子府村の木工芸の継承普及に向けた連携に関する協定を締結。 ・地元素材（木灰）の活用を目的とした窯業研修会を開催。 	<p>令和7年 (2025)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川家具工業協同組合が、2025年日本国際博覧会の特別共創プログラム「Co-Design Challenge2024」に参画し、「TEAM EXPOパビリオン」に椅子5脚を展示・提供。

第3部 業 績

1. 研究実験業務

年号(西暦)	研 究 実 験 業 務
昭和30年度 (1955)	<ul style="list-style-type: none"> 量産加工に関する研究 ロールコアー合板の実用に関する研究 道産材(ニレ、ナラ)の高度化利用に関する研究
昭和31年度 (1956)	<ul style="list-style-type: none"> 量産加工に関する研究 ロールコアー合板の実用に関する研究 道産材(ニレ、ナラ)の高度化利用に関する研究
昭和32年度 (1957)	<ul style="list-style-type: none"> 量産加工に関する研究 ロールコアー合板の実用に関する研究 道産材(ニレ、ナラ)の高度化利用に関する研究
昭和33年度 (1958)	<ul style="list-style-type: none"> 量産加工に関する研究 ロールコアー合板の実用に関する研究 尿素樹脂接着剤の増量剤に関する研究 塗膜の補修に関する研究 組立式木製家具の試作研究
昭和34年度 (1959)	<ul style="list-style-type: none"> 量産加工に関する研究(部品加工に関する研究) パーティクルボードの実用に関する研究 酢ビ系樹脂接着剤の実用に関する研究 塗膜の補修に関する研究
昭和35年度 (1960)	<ul style="list-style-type: none"> 道産材(ナラ、ニレ、タモ)の高度化利用に関する研究 水性着色剤の耐候性に関する研究 オイル塗装仕上に関する研究
昭和36年度 (1961)	<ul style="list-style-type: none"> 木製品のダボ接合法に関する研究 木材人工乾燥に関する研究 道産材(ナラ材の小径木)の高度化利用に関する研究 コッピングマシン利用による試作研究 建具下地塗料の改善に関する研究
昭和37年度 (1962)	<ul style="list-style-type: none"> 成型合板による家具の試作研究 コッピングマシン利用による試作研究 組立用金具の開発研究 含浸紙によるメラニン樹脂板の製造試作 着色剤に関する調査研究
昭和38年度 (1963)	<ul style="list-style-type: none"> 組立用金具の開発研究 成型合板による家具の試作研究 ユニット家具の試作研究 塗装仕上げに関する調査研究 リビング家具に関する試作研究
昭和39年度 (1964)	<ul style="list-style-type: none"> 接合部の強度と作業性に関する研究 (楕円柄及び平柄構造について) 接着剤の性能に関する研究 (寒冷地における接着剤の性能について) 研削仕上に関する研究

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塗膜ワレ試験法に関する研究 ・ 塗装仕上に関する調査研究 ・ リビング及びダイニング家具に関する試作研究
昭和40年度 (1965)	<ul style="list-style-type: none"> ・ パネル構造の変歪に関する研究 ・ 木材乾燥に関する研究 ・ 塗膜ワレ試験法に関する研究 ・ ノックダウン家具の試作研究 ・ ダイニング家具に関する試作研究
昭和41年度 (1966)	<ul style="list-style-type: none"> ・ パネル構造の変歪に関する研究 ・ 木材乾燥に関する研究 (樹種別天然乾燥) ・ 木材含水率の実態調査 (第1回) ・ ポリエステル塗装における“銀目”の発生原因に関する研究 ・ 学童用家具に関する試作研究
昭和42年度 (1967)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 椅子の強度設計に関する研究 I ・ 小木工品の加工技術開発に関する研究 ・ 木材含水率の実態調査 (第2回) ・ 着色剤の耐光性に関する研究 ・ 化粧紙の接着に関する研究 ・ フィンガージョイントの刃物試作実験 ・ 塗装機器及び塗装法に関する調査 ・リビング及びダイニング家具に関する試作研究
昭和43年度 (1968)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 椅子の強度設計に関する研究 II (ダボおよび楕円柄の接合効率について) ・ 着色剤の耐光性に関する研究 ・ 木材乾燥に関する研究 (アガチス材) ・ 天乾材の期間別含水率の測定 ・リビング家具に関する試作研究 ・ 小木工品開発に関する試作研究
昭和44年度 (1969)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 椅子の強度設計に関する試作研究 III ・ 加工精度に関する研究 ・ コッピングマシンのモデル倍率に関する研究 ・ 木材乾燥に関する研究 (木材の材芯温度について) ・ 刃物の硬度に関する研究 ・ 着色剤による標準色作成に関する研究 ・ 育児用家具に関する試作研究 ・ 小木工品開発に関する試作研究
昭和45年度 (1970)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 椅子の強度設計に関する研究 IV (局部構造の解析について) ・ 接着作業標準設定に関する研究 ・ 成型合板の変歪に関する研究 ・ 加工精度に関する調査研究 ・ 着色剤による標準色作成に関する研究 ・ アイヌ紋様塗装に関する研究 ・ 遊具に関する試作研究 ・リビング・ダイニング家具に関する試作研究
昭和46年度 (1971)	<ul style="list-style-type: none"> ・ パーティクルボードの接合法に関する研究 ・ 接着作業標準設定に関する研究 ・ 道産材による小木工品の試作研究

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育児用具に関する試作研究 ・ リビング・ダイニング家具に関する試作研究
昭和47年度 (1972)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接着作業標準設定に関する研究 (速乾型接着剤について) ・ 木材着色に関する研究 (道産材の薬品着色について) ・ 塗膜の物理的性質に関する研究 (塗膜性能分析について) ・リビング・ダイニング家具に関する試作研究 ・ 小木工品開発に関する試作研究
昭和48年度 (1973)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商品性能分析に関する研究 (市販木製椅子の耐力について) ・ 切削作業標準設定に関する研究 (ルーター切削加工条件について) ・ 接着作業標準設定に関する研究 (面材接着作業条件について) ・ パネル構造に関する研究 (木質複合パネルの変歪について) ・ α-オレフィン系接着剤の実用に関する研究 ・ 木材着色に関する研究 (針葉樹材の着色について) ・ 塗料および接着剤の供給状況実態調査 ・ 各種機械設備の稼働分析に関する研究 ・リビング・ダイニング家具に関する試作研究 ・ 小物家具開発に関する試作研究 ・ 建具用パターンに関する試作研究 ・ 小木工品開発に関する試作研究
昭和49年度 (1974)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木材乾燥スピード化に関する研究 (減圧乾燥について) ・ 切削作業標準設定に関する研究 (鋸断切削加工条件について) ・ 木材着色に関する研究 (道産材の万能着色について) ・ 商品性能分析に関する研究 (静的荷重と動的荷重による相関性について) ・ 成型合板の性能に関する研究 ・リビング・ダイニング家具に関する試作研究 ・ 小物家具開発に関する試作研究 ・ 小木工品開発に関する試作研究
昭和50年度 (1975)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木材乾燥のスピード化に関する研究 (減圧乾燥) ・ 商品性能分析に関する基礎的研究 (接合部の耐力) ・ 切削条件に関する基礎的研究 ・ 塗装技術に関する基礎的研究 (薄塗り塗装) ・ 製品開発に関する研究 (家具、小木工品) ・ 高温蒸煮材の曲げ強度に関する研究
昭和51年度 (1976)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 減圧乾燥器による木材乾燥のスピード化に関する研究 ・ 切削条件に関する研究 ・ 性能分析に関する研究 ・ 接着技術に関する研究 (機械接着) ・ 技術開発に関する研究 (ミニフィンガー接合) ・ 塗装技術に関する研究 ・ 火山灰添加による素地改良に関する研究 ・ 植木鉢の低温焼成釉に関する研究 ・ 素地表面化粧に関する研究
昭和52年度 (1977)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研削作業に関する基礎的研究 ・ ミニフィンガージョイント工法に関する研究 ・ 製品開発に関する研究 ・ 製品性能分析に関する研究 (引き出し構造)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品開発に関する研究 ・ 浄水スラッジ資源化に関する研究（陶管製造技術を利用した製品開発）
昭和53年度 (1978)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミニフィンガージョイント工法に関する研究 ・ 未利用材の高度利用に関する研究 ・ 製品性能に関する研究 ・ 標準作業設定に関する研究（研削条件工程管理） ・ 各種組手構造に関すること ・ 釉薬原料の応用研究（バーク灰の釉薬原料への利用化） ・ 樹脂石こう利用技術開発に関する研究
昭和54年度 (1979)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新製品開発に関する研究（家具・建具・民芸） ・ 製品性能に関すること ・ 未利用材の高度利用に関すること ・ 曲面研削に関すること ・ 接合構造及び治具に関すること ・ 新製品開発に関する研究 ・ 技術開発に関する研究 ・ 花崗岩釉の研究（花崗岩屑の釉薬原料への活用）
昭和55年度 (1980)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新製品開発に関する研究（家具・小木工品） ・ 曲面研削に関すること ・ 木材着色に関すること ・ カラマツ材の利用技術に関すること ・ 異種材の接着と装飾加工に関すること ・ 旋削技術と変歪に関すること ・ 接合技術の利用と治工具の開発に関すること ・ 製品性能に関すること ・ ホルムアルデヒドの放散防止に関すること ・ 新製品開発に関する研究（窯業） ・ 電気炉による焼成方法の研究 ・ 花崗岩釉の研究（花崗岩屑による着色釉薬の開発）
昭和56年度 (1981)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新製品開発の研究（リビング・ダイニング、小木工と陶器のテーブルウェア） ・ 曲面研削 ・ ベルトサンダーに関する研究 ・ 木材着色 ・ 製品塗膜の品質基準設定 ・ 木材乾燥費の軽減 ・ カラマツ材の利用技術 ・ 異種材（紙と木）の接着技術 ・ ナライ旋盤による切削技術 ・ 接合技術と装飾加工 ・ 製品性能分析 ・ ホルムアルデヒドの放散防止 ・ 灰釉の利用研究 ・ 火山灰素と釉薬の発色に関する研究
昭和57年度 (1982)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新製品開発の研究（リビング・ダイニング、和室家具・建具、デスクウェア、和食器セット） ・ 曲面研削

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木材着色 ・ ベルトサンダーに関する研究 ・ カラマツ材の利用技術 ・ 製品性能分析 ・ ホルムアルデヒドの放散防止 ・ マイコンプログラム開発の研究 ・ 装飾加工技術に関する研究 ・ 高周波利用による木材乾燥 ・ 曲面切削・旋削における作業標準化 ・ 灰釉の利用研究 ・ 鑄込成形に関する研究
昭和58年度 (1983)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品開発の研究 (リビング・ダイニングテーブルウェア、コーヒー茶碗セット) ・ 曲面研削 ・ ベルトサンダーに関する研究 ・ 製品塗膜の品質基準設定 ・ カラマツ材の利用技術 ・ マイコンプログラム開発の研究 ・ 曲面切削に関する研究 ・ 灰釉の利用研究 ・ 鑄込みによる壁面スタイル研究
昭和59年度 (1984)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品開発の研究 (リビング・ダイニング、建具、テーブルウェア) ・ ベルトサンダーに関する研究 ・ 製品塗膜の品質基準設定 ・ カラマツ材の利用研究 ・ 曲面切削に関する研究 ・ 旋削技術に関する研究 ・ 装飾加工技術に関する応用研究 ・ 火山灰釉に関する研究 (台場火山灰による青磁釉の研究)
昭和60年度 (1985)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道産材活用による製品開発研究 (学校用、リビング・ダイニング用家具、パーソナルギフト商品の開発) ・ 耐熱食器に関する研究 ・ 火山灰釉に関する研究 (台場火山灰によるマット釉の研究)
昭和61年度 (1986)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道産材活用による製品開発研究 (オフィス、リビング・ダイニング家具の開発、テーブルウェア、デスクウェアの商品開発) ・ 装飾技法に関する研究 (練込み紋様、浮彫紋様、化粧土吹付) ・ 火山灰釉に関する研究 (台場火山灰による鉄釉の研究)
昭和62年度 (1987)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道産材活用による製品開発研究 (収納家具の開発、ロビーの空間の演出「市役所ロビーに設置」、和の生活空間で使用する道具の開発) ・ 装飾技法を用いた製品開発 ・ 火山灰釉に関する研究 (台場火山灰による鉄釉の研究)
昭和63年度 (1988)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道産材活用による製品開発研究 (高齢者用家具、小径木を利用した小木工品の開発) ・ CAD技術開発に関する研究 (2次元CADシステムの「収納システム家具」設計への応用例、3次元CADの製品開発への利用) ・ 高温・高風による木材乾燥の研究 (ナラ小中径材の適性乾燥スケジュールの設定) ・ 接着・接合技術に関する研究 (ダボ孔の加工条件、ダボの加工条件、接着剤の種類) ・ 小物製品に建具技術を用いた商品開発

	<ul style="list-style-type: none"> ・ チタン結晶釉に関する研究 ・ 地元原料の配合研究
平成元年度 (1989)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道産材活用による製品開発研究（高齢者用家具の開発） ・ ギフト商品の開発 ・ CAD技術開発に関する研究（2次元CADシステムの「ユニット家具」設計、積算への応用例、3次元CADの設計、生産への利用） ・ 木材乾燥に関する研究（ホワイトオーク材の乾燥スケジュールの設定） ・ 接着・接合技術に関する研究（前年度得られた性能を現場で維持するための作業条件の検討） ・ 小物製品への建具技術の利用研究（組子パターンの曲面化、組子の2次機械加工化、組子の形状や面形状の変化及び接手法） ・ チタン結晶釉に関する研究 ・ 地元原料の配合研究
平成2年度 (1990)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者用家具の開発（リビング用、ダイニング用として共用できる家具） ・ パーティ用器の開発 ・ CAD利用技術に関する研究（3次元CADシステムの設計、生産への利用） ・ 小物製品への建具技術の利用研究（インテリア関連製品の開発） ・ 椅子の生産に関する研究 ・ 鉄赤釉に関する研究 ・ 溶射技術の活用研究
平成3年度 (1991)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家具の開発（リビングファニチャー） ・ 小木工品の開発研究（新商品開発と流通開発を通じて将来の小木工市場の検討） ・ 建具技術利用による製品開発 ・ スプリング加工をモチーフとしたインテリア関連商品の開発 ・ 鉄赤釉に関する研究 ・ 溶射技術の活用研究
平成4年度 (1992)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小木工品の開発研究（産地イメージ商品の検討） ・ CAD利用技術に関する研究（「利用しやすいシステム」の研究開発） ・ 曲面部材の加工技術に関する研究 ・ 室内木製建具の気密性に関する研究 ・ 油滴天目釉に関する基礎研究 ・ 産地原料の配合研究
平成5年度 (1993)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動作メカの開発研究（可動式間仕切りカウンターテーブルの開発） ・ 曲面部材の加工技術に関する研究（材料歩留り向上、接合箇所の減少、製品の軽量化等の有効性） ・ 椅子の製品開発研究（割りクサビによる接合面積の拡大、成型合板の弾力性活用、アルミ板との複合接着による軽減化、寄せ木細工の活用、薄型合板によるノックダウン機構、曲げ木技術の活用） ・ 油滴天目釉に関する研究
平成6年度 (1994)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築に付随する家具の開発 ・ CAD/CAM、CG利用技術開発に関する研究（CADを利用したNCデータ編集システムの開発研究、NCデータの3次元CAD図形データへの変換システムの開発研究、3次元CADの有するNC機能の利活用を進めた研究） ・ 異機種CADデータ変換システムの開発研究 ・ 曲面部材の加工技術に関する研究（歩留り及び接合強度の向上・曲げ木変形量の把握、曲げ木前の加工限界の追求、木材と異種材の接着剤性能の把握、曲面部材を接

	<ul style="list-style-type: none"> 着接合する圧縮機械の開発) ・ 糊薬原料の活用研究
平成7年度 (1995)	<ul style="list-style-type: none"> ・ CAD/CAM、CG利用技術開発に関する研究 (CG形状データのCAD図形データへの変換プログラムの開発研究) ・ 3次元CADの有するNC機能の利活用を進めるための研究 ・ 多品種少量生産における省力化システムの開発研究 ・ 糊薬原料の活用研究
平成8年度 (1996)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭用屋外家具の開発研究 ・ 高齢者にやさしいインテリアの研究 ・ 子供用家具の開発研究 ・ 空間の有効利用家具開発 ・ 糊薬原料の活用研究
平成9年度 (1997)	<ul style="list-style-type: none"> ・ CAD/CAM、CGの利用技術研究 ・ 家具の振動試験に関する研究 ・ ガラスカレットの利用研究 (技術動向・資料収集調査) ・ 空間の有効利用家具開発研究 ・ 家庭用屋外家具の開発研究 ・ 子供用家具の開発研究 ・ 椅子の開発研究
平成10年度 (1998)	<ul style="list-style-type: none"> ・ CAD/CAM、CGの利用技術研究 ・ ガラスカレットの利用研究 (産学官共同開発事業) ・ 空間の有効利用家具開発研究 ・ 新素材を利用した家具開発研究 ・ 空間の有効利用家具開発研究 ・ 箱物家具の開発研究 ・ 旭川家具ブランド利用普及事業：市第一応接室のリニューアル
平成11年度 (1999)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旭川家具ブランド利用普及事業：空港ベンチの開発 ・ 光造形システムの利用技術研究 ・ 新素材を利用した家具開発 ・ 高齢者に対応する生活道具の開発研究 ・ 学校給食用磁器食器の試作研究
平成12年度 (2000)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共空間の家具開発 (福祉介護施設) ・ 公共空間の家具開発 (教育施設) ・ 光造形システムの利用技術研究 ・ 高齢者に対応する生活道具の開発研究 ・ 学校給食用磁器食器の試作研究
平成13年度 (2001)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共空間の家具開発 (学校施設) ・ 成型合板技術に関する調査研究 ・ 共用品 (ユニバーサルデザイン) の開発研究：高齢者にも優しい生活道具 ・ 高齢者用食器の開発
平成14年度 (2002)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質の向上に関する研究 ・ マーケティングに関する研究 ・ 品質試験マニュアルの作成
平成15年度 (2003)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旭川家具コーディネート事業 ・ コンピュータ利用技術開発

平成16年度 (2004)	<ul style="list-style-type: none"> 旭川家具・建具ブランド化事業（旭川家具などの品質基準に関する調査研究） 小家具・小木工品企業のデザインパイロット事業 和みの生活提案
平成17年度 (2005)	<ul style="list-style-type: none"> 小家具・小木工品企業のデザインパイロット事業（ギフト商品に関する研究開発） 旭川家具・建具のブランド化事業（旭川家具などの品質基準に関する調査研究：部材性能の研究開発事業） 和みの生活提案 しきり建具のデザイン開発
平成18年度 (2006)	<ul style="list-style-type: none"> しきり建具のデザイン開発 伝統的工芸品普及拡大事業 旭川クラフト次世代戦略事業
平成19年度 (2007)	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的工芸品普及拡大事業 旭川クラフト改造計画事業（地域資源∞全国展開プロジェクト） 製品開発連携事業：電動式モーターパラグライダーの開発
平成20年度 (2008)	<ul style="list-style-type: none"> 旭川工芸ブランディング事業（地域資源∞全国展開プロジェクト）
平成21年度 (2009)	<ul style="list-style-type: none"> 旭川クラフト・クリエイティブマーケティング事業
平成24年度 (2012)	<ul style="list-style-type: none"> 旭川木彫・工芸品協会による「なんばグランド花月伝統工芸看板」への取組支援 塗装木材の含水率変動に関する研究
平成25年度 (2013)	<ul style="list-style-type: none"> 石膏型による鑄込み成形と川砂を活用した釉薬に関する研究 楢円ホゾとドミノの比較研究
平成26年度 (2014)	<ul style="list-style-type: none"> 「幸せの椅子」の開発 道内産火山灰を活用した釉薬の調合・比較研究 トドマツ材の接合部強度に関する研究
平成27年度 (2015)	<ul style="list-style-type: none"> 道産カンバ類の高付加価値用途への技術開発（林産試験場との共同開発） 地元の川砂を活用した鉄赤釉の調合研究 ホゾ幅と接合部強度の関係に関する研究
平成28年度 (2016)	<ul style="list-style-type: none"> 道産カンバ類の高付加価値用途への技術開発（林産試験場との共同開発） 接合部強度と仕口の嵌合度・取合いの関係に関する研究 青磁釉に関する研究
平成29年度 (2017)	<ul style="list-style-type: none"> 道産カンバ類の高付加価値用途への技術開発（林産試験場との共同開発） 北海道産タモ材の性能評価 基礎釉・着色金属・焼成の組合せによる釉薬の発色に関する研究 接着剤の塗布量の違いによる接合強度に関する研究
平成30年度 (2018)	<ul style="list-style-type: none"> 隅木の効果に関する研究 焼成条件の違いによる素地と釉薬の変化に関する研究 ブランディングに関する研究
令和元年度 (2019)	<ul style="list-style-type: none"> 接着剤の性能評価に関する研究 化粧土の調合と装飾技法に関する研究 サンドブラストを活用した木材への彫刻加工に関する研究
令和2年度 (2020)	<ul style="list-style-type: none"> アクリル加工による試作開発（座席仕切り用衝立、パーティションほか） 接着剤の耐水性に関する研究 CAEを活用した設計に関する研究 和紙染め・モカウェア・レーザー加工・釉調合に関する研究

令和3年度 (2021)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料寸法と強度の関係に関する研究 ・ 接着剤の耐水性に関する研究 ・ 基礎釉によって変化する釉薬の発色に関する研究 ・ ポプラ材を活用した製品開発
令和4年度 (2022)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道産材の更なる利用促進に向けた研究（北海道広葉樹利用促進研究会） ・ 道産木材の性能評価 ・ 木材の表面硬さに関する研究 ・ 陶芸の装飾技法に関する研究
令和5年度 (2023)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道産材の更なる利用促進に向けた研究（北海道広葉樹利用促進研究会） ・ 楕円ホゾ接合とダボ接合の比較研究 ・ 凍結した接着剤の接着力に関する研究 ・ 釉調合に関する研究
令和6年度 (2024)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一液型ウレタン系接着剤の強度に関する研究 ・ 市販の光沢透明釉の活用に関する研究、石膏型製作に関する研究
令和7年度 (2025)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 灰釉に関する研究 ・ トルコ青釉に関する研究

2. 製品開発状況

(1) 家具関係 (昭和60年以降記載)

年度	製品名	点数	主材料	参考出品展示会
S 60	学童用セット	12	シカバ・カラム	第31回旭川木工祭
	リビング・ダイニングセット	20	シラカバ	第3回北国の創作家具展
	リビング・ダイニングセット	14	シラカバ	第34回旭川家具建具新作展
61	オフィスセット他	17	シラカバ	第32回旭川木工祭
	オフィスセット他	20	シラカバ	第4回北国の創作家具展
	リビング・ダイニングセット	17	ニレ	第35回旭川家具建具新作展
62	ロビー用家具	8	シラカバ	第33回旭川木工祭
	ロビー用家具他	11	シラカバ・陶器	第5回北国の創作家具展
	襖家具・壁家具他	9	シラカバ・ニレ	第36回旭川家具建具新作展
63	高齢者用家具 (ソファ・小椅子他)	8	ニレ	第34回旭川木工祭
	高齢者用家具 (ソファ・ベッド他)	10	シラカバ	第37回旭川家具建具新作展
H 元	高齢者用家具 (ダイニング用椅子他)	6	シラカバ	第35回旭川木工祭
	高齢者用家具 (ソファ・棚他)	9	ニレ	第38回旭川家具建具新作展
2	小椅子他	10	ナラ他	国際家具デザインフェア旭川'90 企業展 (第36回木工祭)
	高齢者用家具 (椅子・棚)	12	ナラ	第39回旭川家具建具新作展
3	リビング用家具	11	ナラ	ANIC40旭川新作展
5	小椅子	5	ナラ他	国際家具デザインフェア旭川'93 企業展
	可動式カウンターテーブル	1		
6	据え付け家具 (布団箆笥・書棚 デスク)	2	キリ	
	小椅子	3	ナラ	
7	ベンチ「HAT BENCH」	1	ナラ	国際家具デザインフェア'96 コンペ入選
9	子供用家具 (デスク・椅子・ベッド)	9		ANIC46旭川新作展
	家庭用屋外家具 (椅子・テーブル・ ベンチ・ブランケット置フェンス)	4	エゾマツ	〃
10	居間収納 (リビングボード) ー拡張式ー	1	マカバ	
	〃 (シェル7A) ーコーナー兼用ー	1	ナラ・一部メープル	
	台所収納 (シェル7B) ー折りたたみ式ー	1	ナラ	
	間仕切収納 (パネルラック)	1	ナラ	
	玄関収納 (シューズラック)	1	ナラ・一部メープル	
	オールラウンド収納 (シェル7B)	1	ナラ	
11	空港用ベンチ (Type1)	1	ナラ	
	〃 (Type2)	1	カバ	
	〃 (Type3)	1	成型合板	
	高齢者用家具 (椅子)	7		
	〃 (テーブル&照明スタンド)	1		
	〃 (ウォキング・ワゴン)	1		

12	教室用机椅子	1	アルミフレーム	ANIC49
	〃	2	木製	〃
	〃	2	スチールフレーム	〃
	オープンスペース	1		〃
	パソコン教室用家具 (テーブル類)	4		〃
	〃 (収納家具)	6		〃
	図書用家具 (書架)	2		〃
	〃 (テーブル)	1		〃
	〃 (椅子)	1		〃
	高齢者用家具 (椅子)	12		旭川市工芸センター2Fショールーム
	〃 (ワゴン)	1		工芸まつり
	〃 (テーブル)	2		
	高齢者用家具 (肘掛け)	1		
13	特殊学校用家具 (一人用昇降テーブル)	1	ナラ、積層合板	
	〃 (独立昇降テーブル)	1	〃	
	〃 (書見スタンド)	1	〃	
	〃 (奥行傾斜ワゴン)	1	〃	
	〃 (奥行2段傾斜ワゴン)	1	〃	
	〃 (側方傾斜ワゴン)	1	〃	
	〃 (座机)	1	ナラ、ランバゴ合板	
	〃 (姿勢保持椅子)	1	〃	
26	幸せの椅子	1	ナラ	
27	ダイニングセット	1	シラカバ	
28	学習椅子・机セット	1	〃	
29	ダイニングセット	1	〃	
R 3	ポプラ材を用いた製品 (テーブル、ベンチ、天板)	6	ポプラ	

建具・小木工品・窯業関係（昭和60年以降記載）

年 度	製 品 名	点 数	主 材 料	参 考 出 品 展 示 会
S 60	パーソナルギフト	7	エゾマツ	第33回全国試験場作品展
	テーブルウェア	16	エゾマツ他	第29回旭川秀作民芸展
	耐熱食器他	29		第8回旭川窯元陶芸展
61	テーブルウェア	16	シラカバ・エンジュ他	第34回全国試験場作品展
	テーブルウェア	16	シラカバ・エンジュ他	第30回旭川秀作民芸展
	陶器（花瓶・盛器）	18		第9回旭川窯元陶芸展
62	小物家具（和風）	16	シラカバ	第35回全国試験場作品展
	陶器（花瓶・焼徳利他）	17		第10回旭川窯元陶芸展
63	コーヒーカップ他	16	ナラ・陶器	第11回旭川窯元陶芸展
	テーブルウェア（箸置他）	16	エンジュ	'89あさひかわ木のモノ民・工芸品展
H 元	陶器（壺・花瓶・皿）	8	ナラ・ウォールナット	第12回旭川窯元陶芸展
	ハンガー・お盆他	8		'90あさひかわ木のモノ民・工芸品展
	コーヒーカップ他	10		第26回陶磁器試験研究機関作品展
2	溶射技術による壁面タイル他	10	シラカバ他 ニレ・シラカバ	第13回旭川窯元陶芸展
	パーティー容器	17		'91あさひかわ木のモノ民・工芸品展
	建具技術を用いた小家具 （座椅子・座卓他）	6		
3	陶器	28	マツ・ナラ	第14回旭川窯元陶芸展
	建具技術を用いた小家具 （スタンド・吊棚他）	6		
4	室内木製気密建具 小箱他	30	マツ シラカバ	'93あさひかわ木のモノ民・工芸品展
12	学校給食用食器（飯碗）	1	磁器	
	〃（汁碗）	1	〃	
	〃（大皿）	1	〃	
	〃（小皿）	1	〃	
13	高齢者用食器（リップ付き中鉢・小鉢）	2	陶器	
	〃（リップ無し小鉢）	1	〃	
	〃（傾斜中鉢）	1	〃	
	〃（方変形大鉢）	1	〃	
	〃（両変形大鉢）	1	〃	
R 2	座席仕切り用衝立	1	アクリル・ナラ	
	パーティション （受付用、猫カフェ用他）	12	アクリル・メープル他	
3	ポプラ材を用いた製品（器）	2	ポプラ	

3. 技術指導

企業の求めに応じ、企業実体及び生産現場に即した技術・設備管理計画等について次のとおり指導を行っている。

(単位：件数)

内 容 年 度	木 材 加 工 技 術	接 着 接 合 ・ 塗 装	木 材 乾 燥	デ ザ イ ン	材 料 強 度	コ ン ピ ユ ー タ 関 連	品 質 ・ 性 能 等 (J I S 試 験 等)	そ の 他 (加 工 過 程 ・ 研 究 支 援 等)	窯 業	計
H 17	15	14		10	29	32	84	10	10	204
18	27	9	3	6	28	24	96	17	10	220
19	38	4	2	1	14	22	29		11	121
20	80	14	2	19	10	37	65	22	15	264
21	58	10	2	6	3	40	48	31	18	216
22	103	9		8	7	44	29	28	15	243
23	144	5		3	3	109	45	14	15	338
24	102	8		2	4	114	30	35	15	310
25	99	9	1	4	3	47	49	22	14	248
26	53	8		6	1	32	39	33	7	179
27	37	4		1		47	18	51	14	172
28	34	3	4	6	3	23	9	21	17	120
29	31	9	2	3	1	41	25	37	15	164
30	32	4	3		4	24	13	17	19	116
R 1	10	1			3	22	22	7	12	77
2	34	7	1	2	1	13	20	14	7	99
3	13	8			3	17	15	12	12	80
4	32	1	1	2	4	12	17	6	12	87
5	28	9	1	2	3	12	13	4	11	83
6	10	8		1		4	16	3	20	62

4. 製造業実態調査

製造事業者（家具・木製品、陶磁器）の経営状況、生産品目、経営者の意向等を調査し、業界を把握し情報として提供するとともに、当所事業への反映に努めている。

（旭川市工芸センター調べ） 単位：人・億円

調査年度	木製家具製造業		木製建具製造業		工芸品等製造業		陶磁器製造業	
	従業員数 (推計値)	売上高 (推計値)	従業員数 (推計値)	売上高 (推計値)	従業員数 (推計値)	売上高 (推計値)	従業員数 (推計値)	生産額 (推計値)
H18	1,550	163	275	29.9	231	11.7	-	1.8
19	1,500	157	260	31.0	-	-	-	-
20	1,450	153	237	27.1	205	10.5	-	1.3
21	1,350	138	196	22.8	-	-	-	-
22	1,280	118	166	18.0	189	8.8	-	1.1
23	1,280	129	145	16.7	-	-	-	-
24	1,290	126	129	15.2	168	9.5	-	1.2
25	1,300	128	134	14.6	-	-	-	-
26	1,350	144	136	21.0	187	10.8	67	1.2
27	1,380	147	133	20.1	-	-	-	-
28	1,350	151	140	20.0	178 ※H27比較用(125)	10.8 ※H27比較用(6.7)	61	1.1
29	1,355	144	143	19.2	-	-	-	-
30	1,437	150	137	21.9	125	7.5	60	1.1
R元	1,398	151	176	22.4	-	-	-	-
2	1,402	152	136	20.5	119	7.3	55	0.8
3	1,396	143	141	18.2	-	-	-	-
4	1,427	152	139	14.4	112	6.3	49	0.5
5	1,510	158	141	19.0	-	-	-	-
6	1,400	166	148	20.0	100	5.7	49	0.7

※ 売上高等（推計値）は、調査対象企業の前年分の実績を元に推計した数値である。

※ 建具の売上高について、R5年度調査（R4年度実績）から小数点以下を四捨五入している。

※ 工芸品等の売上高について、H30年度調査（H29年度実績）において調査対象事業所の見直しを行い、業態変更している13の事業所を工芸品等製造業調査から木製家具製造業調査に移行したことに伴い、調査データを単純に比較できなくなったため、移行した事業所をH27年度実績から除いた推計値「H27実績比較用データ」を作成し比較を行っている。

※ 陶磁器製造業の従業員数について、H26年度調査（H25年度実績）から推計値を算出している。

5. 研修会・講習会等

企業における技術・知識を備えた総合的人材を育成するため、従事者等を対象として、技術・技能の基礎知識、応用・最新技術等についての実習や座学等を開催している。

(単位：回数)

内 容		年 度									
		H17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
実 習	加 工 技 術					1		2	1	1	1
	接 着 ・ 塗 装				1	1				1	
	C A D / C A M / N C		1		1	2	1				
	窯 業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	市 民 向 け										
座 学	加 工 技 術		2		1	1	1				
	デ ザ イ ン			8	1	13	2	1	1	1	1
	流 通 ・ 市 場 動 向	1		1	2	2	1				
	経 営 ・ マ ネ ジ メ ン ト						4	1	2	1	
	販 売 促 進						1	1	1		
	商 品 (製 品) 開 発	1	2	2	8	2	3	1	1	1	1
	接 着 ・ 塗 装			1					1	1	1
	事 例 紹 介 (旭 川 地 域)			1							
	事 例 紹 介 (他 地 域)		1	1							2
	異 業 種		1	3	1	1	1	2			
	木 彫 ・ ク ラ フ ト		1	1	1						
	窯 業				1		1	1	1	1	1
	市 民 向 け							2	2	2	2
そ の 他		2	4		1	1	1	2	1	3	
受 入 研 修	加 工 技 術	1	1								
	C A D / C A M / N C	2							2		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ		1	1	1	1	1	1	1	1	1
	技 能 五 輪										
	窯 業		1								
	そ の 他										
ものづくりサマーキャンプ										2	2
ものづくりインターンシップ											
木工コミュニティキャンプ						1	1	1	1	1	1

内 容		年 度										
		27	28	29	30	R元	2	3	4	5	6	7
実 習	加 工 技 術	1	2	2	2	2		1	2	2		2
	接 着 ・ 塗 装										1	1
	C A D / C A M / N C						1	1		1	1	1
	窯 業	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1
	市 民 向 け	2	2	2	2	2						
座 学	加 工 技 術			1	1						1	
	デ ザ イ ン	2	1									
	流 通 ・ 市 場 動 向											
	経 営 ・ マ ネ ジ メ ン ト											
	販 売 促 進					1						1
	商 品 (製 品) 開 発			1								
	接 着 ・ 塗 装		1				1			2	1	1
	事 例 紹 介 (旭 川 地 域)				1				1	1		
	事 例 紹 介 (他 地 域)	1	1	1	1	1				1		
	異 業 種	1	1			1						
	木 彫 ・ ク ラ フ ト			1								1
	窯 業	1	1	1	1				1	1	1	1
	市 民 向 け											
	そ の 他	1	1						1		1	
受 入 研 修	加 工 技 術		1	1			1	2	1	1		1
	C A D / C A M / N C							1	1			1
	イ ン タ ー ン シ ッ プ	1	1	1	1	1		2	2	1	1	
	技 能 五 輪			1	1	2			1	2	2	1
	窯 業			2		1	1			1		
	そ の 他							1	1	1	1	
ものづくりサマーキャンプ		2	2	2	2							
ものづくりインターンシップ						2		2				
木工コミュニティキャンプ		1	1	1	1							

6. 展示会支援

家具・建具、小木工品、窯業の分野において、旭川産品の販路拡大を図る各種展示会の開催及び出展の支援等を行っている。

内 容		年 度										
		H18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
家 具	旭川家具木工祭MAKROS	○										
	旭川家具産地展		○	○	○	○	○	○	○	○		
	旭川デザインウィーク										○	
	国際家具デザインフェア			○			○			○		
	旭川家具コレクションTOKYO	○										
	ケルン国際家具見本市	○										
	旭川工房家具の会展示会	○	○		○							
	北の創作家具空港展		○									
建 具	にしきり展	○										
	Japan Home and Building Show	○										
建 具	旭川建具空港展		○									
	全国建具展示会 北海道・函館大会			○								
木 彫 ・ ク ラ フ ト	旭川工芸品展	○										
	東京インターナショナルギフトショー	○	○		○							
	旭川木彫りの源流展	○	○									
	伝統的工芸品展WAZA	○	○									
	ミクル展示会		○		○		○	○	○			
	旭川のクラフト		○									
	旭川木彫・工芸品協会展		○									
	旭川木彫展			○	○	○	○	○				
	ノーザンライフ展			○								
	IFFT interiorlifestyle living			○								
	サンタさんからのおくりもの展			○	○							
	北海道芸術教育研究会おもちゃと子ども用家具の展示			○								
	旭川クラフト協議会見本市				○							
	旭川クラフト普及協会展示会					○						
	旭川木工コミュニティマーケット						○	○	○			
	デザインギャラリー企画展						○	○				
	旭川「木と手の仕事展」						○	○				
	平塚賢智遺作展						○					
	MOKKO HOTEL ASAHIKAWA							○				
	北から暮しの工芸祭							○	○			
北海道物産展								○				
旭川クラフト展									○			
A M C C 企画展									○	○		
Asahikawa Woodworking										○		
窯 業	旭川陶芸フェスティバル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

内 容		年 度									
		28	29	30	R 元	2	3	4	5	6	7
家 具	旭川デザインウイーク	○	○	○	○	中止	○				
	Meet up Furniture Asahikawa							○	○	○	○
	国際家具デザインフェア		○			延期	○			○	
	IFFT interiorlifestyle living 家具産地旭川展in羽田空港	○	○	○	○	中止	○	○	○		
木彫 ・クラフト	木彫りの源流~旭川木彫・工芸品協会展~			○	○	○	○	○	○	○	○
	旭川クラフト展		○								
	A M C C 企 画 展	○									
	旭川工芸展					中止	中止				
	木のモノ組合50周年記念展示会 クラフト展2026inニセコ								○		○
窯 業	旭川陶芸フェスティバル	○	○	○	○	中止	中止	○	○	○	○
	旭川冬のやきもの市										○

※ 「旭川家具木工祭MAKROS」は、H19から「旭川家具産地展」、H27から「旭川デザインウイーク」、R4から「Meet up Furniture Asahikawa」に名称変更。

※ R2及びR3の「中止」及び「延期」は、新型コロナウイルスによる。

7. 依頼業務・機械使用

企業等からの依頼試験・分析等、及び企業等への機械設備貸出を行っている。

(単位：件数)

内 容	年 度									
	H17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
試 験 分 析	182	218	333	257	254	173	318	260	177	377
・ 木 材 木 質 試 験 (強 度 試 験)	(23)	(14)	(55)	(23)	(31)	(24)	(39)	(45)	(27)	(35)
(含 水 率 測 定)	(2)			(7)	(10)	(2)	(2)	(25)	(5)	(9)
・ 接 着 力 試 験	(21)		(27)	(27)		(14)	(10)	(9)	(4)	(16)
・ 恒 温 恒 湿 処 理 試 験 (恒 温 恒 湿 処 理 試 験 (大))				(17)						
(恒 温 恒 湿 処 理 試 験 (小))	(4)	(11)		(22)	(51)	(32)	(23)	(59)		
・ 恒 温 水 槽 処 理 試 験					(2)	(1)	(4)	(4)		
・ 製 品 性 能 試 験 (繰 返 し 荷 重 試 験)										
(繰 返 し 衝 撃 荷 重 試 験)	(22)	(31)	(62)	(31)	(58)	(44)	(60)	(36)	(32)	(28)
(静 的 強 度 試 験)	(68)	(94)	(102)	(64)	(78)	(26)	(81)	(44)	(71)	(163)
(衝 撃 試 験)	(8)	(20)	(23)	(19)	(15)	(7)	(11)	(10)	(10)	(26)
(耐 久 性 試 験)	(34)	(45)	(48)	(39)	(9)	(23)	(82)	(28)	(28)	(100)
・ 塗 料 ・ 塗 膜 試 験			(16)	(8)			(6)			
・ 窯 業 試 験 ・ 調 整		(3)								
機 械 使 用	843	943	710	772	882	729	1,028	1,081	1,209	970

内 容	年 度									
	27	28	29	30	R 元	2	3	4	5	6
試 験 分 析	437	566	685	662	895	835	1,000	711	1,084	1,191
・ 木 材 木 質 試 験 (強 度 試 験)	(12)	(60)	(37)	(57)	(88)	(84)	(134)	(61)	(103)	(41)
(含 水 率 測 定)	(8)	(6)	(12)	(31)	(9)	(4)	(21)	(12)	(22)	(43)
・ 接 着 力 試 験	(12)	(56)	(18)	(13)	(29)	(71)	(45)	(4)	(56)	(15)
・ 恒 温 恒 湿 処 理 試 験 (恒 温 恒 湿 処 理 試 験 (大))									(26)	(60)
(恒 温 恒 湿 処 理 試 験 (小))	(26)		(15)	(33)	(88)	(70)	(53)	(51)	(69)	(18)
・ 恒 温 水 槽 処 理 試 験	(8)			(5)	(1)		(4)			
・ 製 品 性 能 試 験 (繰 返 し 荷 重 試 験)				(2)	(4)	(4)				
(繰 返 し 衝 撃 荷 重 試 験)	(142)	(82)	(46)	(75)	(118)	(111)	(140)	(145)	(134)	(85)
(静 的 強 度 試 験)	(122)	(228)	(280)	(208)	(243)	(217)	(197)	(192)	(312)	(397)
(衝 撃 試 験)	(20)	(35)	(99)	(58)	(72)	(29)	(47)	(46)	(74)	(108)
(耐 久 性 試 験)	(82)	(99)	(169)	(180)	(235)	(243)	(359)	(188)	(288)	(424)
・ 塗 料 ・ 塗 膜 試 験	(5)		(9)		(8)	(2)		(12)		
・ 窯 業 試 験 ・ 調 整										
機 械 使 用	966	1,091	950	1,003	872	687	696	681	776	739

8. 技能五輪大会

技能五輪大会（全国・国際）は、企業における若年技能者の技術習得意欲の増進及び技能水準の向上を図ることを目的に開催している。当所では、本市の基幹産業である家具装備品製造業における技能者の養成には特に力を注いでおり、例年、出場者を対象に短期の受入強化研修を実施し、成果を上げている。

(1) 技能五輪全国大会出場者（家具部門）

開催年	出場者氏名	企業名	順位	開催地
昭和39年	藤原 悟	横 幕 建 具	4 位	東 京 都
昭和40年	田 中 勲	須 和 建 具		〃
昭和41年	桑 原 義 彦	山 際 家 具	2 位	〃
	今 北 秀 雄	東 光 産 業		
昭和42年	桑 原 義 彦	山 際 家 具	優 勝	〃
昭和43年	吉 田 幸 男	白 井 家 具		〃
	梶 間 博	山 際 家 具		
昭和44年	吉 田 幸 男	山 室 木 工	優 勝	〃
	梶 間 博	山 際 家 具	3 位	
昭和45年	中 村 勝 男	山 室 木 工	5 位	〃
昭和46年	西 田 和 男	田 中 成 型	2 位	〃
	横 山 幸 広	明 石 木 工 製 作 所	4 位	
昭和47年	大 門 嚴	山 際 家 具		〃
昭和48年	大 門 嚴	〃	優 勝	〃
昭和49年	吉 村 純 一	〃	5 位	〃
	星 幸 一	(株)インテリアセンター		
昭和50年	吉 田 秀 樹	明 石 木 工 製 作 所	2 位	〃
	阿 部 和 男	〃		
昭和51年	管 野 峰 夫	山 際 家 具	2 位	〃
昭和52年	管 野 峰 夫	〃	優 勝	〃
昭和53年	栗 本 勝	〃		〃
昭和54年	但 野 勝 夫	〃	3 位	〃
昭和55年	管 野 誠	〃		〃
昭和56年	野 地 栄 光	〃		〃
昭和57年	福 島 克 定	〃	優 勝	〃
昭和58年	三 浦 和 夫	(株) 匠 工 芸		〃
昭和59年	三 浦 和 夫	〃	3 位	〃
	柴 田 春 雄	〃	5 位	
昭和61年	小 林 守	〃	2 位	東京都・千葉県
昭和62年	小 林 守	〃	優 勝	〃
平成 3年	杉 本 憲 彦	(株)インテリアセンター	4 位	〃
平成 6年	佐 藤 篤	道立旭川高等技術専門学院	3 位	富 山 県
平成 7年	桜 井 邦 昭	(有)インテリア北匠工房	優 勝	東京都・千葉県
	稲 川 ゆき子	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	
平成 8年	井 上 勝 人	(有)山田工作所	優 勝	島 根 県
平成 9年	小 林 健 二	〃	2 位	東京都・千葉県
平成10年	川 上 博 美	(株) コ サ イ ン	3 位	群 馬 県

平成11年	川上博美	(株) コ サ イ ン	優勝	静岡県
平成12年	木村亮三	道立旭川高等技術専門学院	優勝	埼玉県
	本江進	旭三商事	銀賞	
	傳里聡	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	
平成13年	傳里聡	(有) グ レ イ ン	3位	福島県
	松本慶太	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	
平成14年	山仲結	三浦室内工創	銀賞	熊本県
	青木研二	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	
	目黒未樹	〃	敢闘賞	
平成15年	原弘治	〃	金賞	新潟県
	川崎俊幸	〃	銀賞	
	前田英次	〃	銀賞	
平成16年	多田吉宏	(有) 山田工作所	敢闘賞	岩手県
平成17年	庄司卓磨	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	山口県
平成18年	庄司卓磨	(有) インテリア北匠工房	金賞	香川県
	西出裕己	(有) 福島巧匠	銀賞	
	小野寺由理	(株) 匠工芸	銅賞	
	北牧知也	道立旭川高等技術専門学院		
平成19年	中島一樹	〃	銀賞	千葉県
	小野寺由理	(株) 匠工芸	銅賞	
	北牧知也	(有) ミツマサ	敢闘賞	
平成20年	中島一樹	(有) ミツマサ	金賞	〃
	岡崎祐人	道立旭川高等技術専門学院		
	谷直樹	〃		
平成21年	岡崎祐人	(株) 三浦室内工創	銅賞	茨城県
	石川絵理	(有) 山田工作所	敢闘賞	
	八木涼平	道立旭川高等技術専門学院		
平成22年	高橋誠弥	(有) 加藤木工	銀賞	神奈川県
	石川絵理	(有) 山田工作所	銅賞	
	吉成岳	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	
平成23年	吉成岳	(有) インテリア北匠工房	金賞	静岡県
	石黒走	道立旭川高等技術専門学院	銅賞	
	林香	〃	銅賞	
	井川大輔	(株) 匠工芸	銅賞	
平成24年	林香	(株) カンディハウス	金賞	長野県
	石黒走	(有) 加藤木工	銅賞	
	佐藤寿城	道立旭川高等技術専門学院		
	西科泉	〃		
平成25年	佐藤寿城	山室木工(株)	第2位	千葉県
	大谷周平	道立旭川高等技術専門学院	第2位	
	内藤衣里	〃	敢闘賞	
	白石将基	〃		
平成26年	大谷周平	(株) プレステージジャパン	金賞	愛知県
	下條恭平	道立旭川高等技術専門学院	銅賞	
	石井厚気	〃	敢闘賞	

平成27年	石井厚気	山室木工(株)	銀賞	千葉県
	小林英里果	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	
	齋藤れな	〃	敢闘賞	
平成28年	安藤哲平	(株)ガージーカームワークス	金賞	山形県
	下條恭平	(有)ワカサ	銀賞	
	齋藤れな	木と暮らしの工房	敢闘賞	
平成29年	倉橋司	道立旭川高等技術専門学院	銀賞	栃木県
	三戸裕太	〃	銅賞	
	荻野圭一	〃	敢闘賞	
	尾崎光	(有)山田工作所	敢闘賞	
平成30年	倉橋司	(株)プレステージジャパン	銀賞	沖縄県
	荻野圭一	(有)杏和建具	銀賞	
	三戸裕太	(株)カンディハウス	銅賞	
	安部卓哉	道立旭川高等技術専門学院	銅賞	
	山崎卓哉	〃	敢闘賞	
	沼倉慎	〃	敢闘賞	
	今野翼	〃	敢闘賞	
令和元年	倉橋司	(株)プレステージジャパン	金賞	愛知県
	今野翼	〃	敢闘賞	
	會田サキ	道立旭川高等技術専門学院		
	井上由歩	(株)匠工芸		
	小西優希	道立旭川高等技術専門学院		
	牧祐太	〃		
令和2年	吉田理玖	道立旭川高等技術専門学院	銀賞	〃
	會田サキ	(有)杏和建具	銅賞	
令和3年	土岐直史	道立旭川高等技術専門学院	銅賞	東京都
	小野竜平	〃	敢闘賞	
	中川仁	〃	敢闘賞	
	荒瀬響	〃		
	佐藤晴南	(株)プレステージジャパン		
令和4年	小亀弦	(株)ガージーカームワークス	敢闘賞	千葉県
	中川仁	(有)杏和建具	敢闘賞	
令和5年	渡部礼嗣	道立旭川高等技術専門学院	銅賞	愛知県
	小亀弦	(株)ガージーカームワークス	銅賞	
	小野竜平	(株)ウッドパーツ	銅賞	
	佐藤鈴奈	(株)プレステージジャパン		
令和6年	高橋溪純	(株)匠工芸	銀賞	〃
	中川仁	コーナス	銀賞	
	小野竜平	(株)ウッドパーツ	銅賞	
	荒瀬響	(株)WOW	銅賞	
	楠本恭治	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	
	佐藤稜馬	〃		

令和 7年	楠 本 恭 治	(株)ウツドパーツ	金 賞	愛 知 県
	小 亀 弦	(株)ガージーカームワークス	銀 賞	
	古 川 琴 葉	(株)匠 工 芸	銀 賞	
	高 橋 溪 純	(株)匠 工 芸	銅 賞	
	中 川 仁	コ ー ナ ス	銅 賞	
	佐 藤 鈴 奈	(株)プレステージジャパン	敢闘賞	

(2) 技能五輪全国大会出場者（建具部門）

開催年	出場者氏名	企業名	順位	開催地
昭和58年	福井敏文	武山建具産業	4位	東京都
昭和59年	福井敏文	〃	2位	〃
平成6年	三嶋正美	(株)児玉製作所	3位	富山県
平成8年	田中康則	太陽工業(有)	2位	島根県
	大嶋悦生	石黒建具工芸(有)	敢闘賞	
平成9年	松田康男	(株)児玉製作所	敢闘賞	東京都・千葉県
平成13年	千葉修司	〃	銅賞	福島県
	篠永晃一	太陽工業(有)		
平成19年	渡来拓郎	(株)匠美社	金賞	千葉県
平成24年	首藤直紀	(株)ハウジング高橋	銀賞	長野県
令和元年	荻野圭一	(有)杏和建具	金賞	愛知県

(3) 技能五輪国際大会出場者（家具部門）

開催年	出場者氏名	企業名	順位	開催国
昭和42年	桑原義彦	山際家具	2位	スペイン
昭和44年	吉田幸男	山室木工	5位	ベルギー
昭和48年	大門 巖	山際家具	3位	西ドイツ
昭和52年	管野峰夫	〃	6位	オランダ
昭和57年	福島克定	〃	※	スペイン
昭和62年	小林 守	(株)匠 工 芸	7位	オーストラリア
平成9年	井上勝人	(有)山田工作所	14位	スイス
平成13年	木村亮三	(株)インテリアナス	18位	韓国
平成19年	庄司卓磨	(有)インテリア北匠工房	18位	日本
平成21年	中島一樹	(有)ミツマサ	16位	カナダ
平成23年	高橋誠弥	(有)加藤木工	15位	イギリス
平成25年	林 香	(株)カンディハウス	21位	ドイツ
平成27年	大谷周平	(株)プレステージジャパン	19位	ブラジル
平成29年	下條恭平	(有)ワカサ	14位(敢闘賞)	アラブ首長国連邦
令和元年	山口智大	(株)ガージーカームワークス	9位(敢闘賞)	ロシア連邦
令和4年	吉田理玖	(株)プレステージジャパン	16位	スイス
令和6年	渡部礼嗣	(株)匠 工 芸	18位	フランス

※ 技能五輪関係は、北海道職業能力開発協会からの資料提供

※ 昭和57年は親善大会のため順位なし

第4部 職員の異動状況

職名	氏名	勤続期間		備考
		転入	転出	
技術	松倉定雄	S30. 4	S42. 10	初代所長 (S30. 4. 1~S42. 10. 31)
〃 (窯業)	板東国光	S30. 4	S46. 3	
〃	伊藤忠雄	S30. 4	S39. 2	
〃 (窯業)	高橋武志		S48. 3	
事務	本城政次	S30. 4	S39. 4	
〃	打田 濤	S30. 4	S47. 10	
技術 (窯業)	板東光雄	S30. 4	S30. 9	
〃 (窯業)	吉田時彦	S30. 4	S37. 7	
〃	竹沢秀夫	S31. 10	S47. 10	
〃	中島 進	S31. 10	H 5. 3	第8代所長 (S56. 10. 22~H5. 3. 31)
事務	竹沢啓子	S32. 4	S33. 10	
〃	加藤国子	S33. 10	S34. 10	
〃	西館節子	S34. 10	S35. 1	
技術	加藤 勉	S35. 1	H 6. 3	
事務	川口日出男	S35. 1	H11. 3	
技術	木村正紀	S35. 1	H 9. 3	
〃	生田道晴	S35. 1	S50. 7	
〃	稲葉寿雄	S35. 1	H 3. 3	
〃	關谷 武	S35. 1	H 8. 3	
〃	佐藤利夫	S35. 1	S47. 10	
〃	田中宏幸	S35. 1	H 7. 3	
〃	立花マサエ	S35. 1	S45. 2	
事務	大橋典子	S35. 1	S36. 4	
業務	松村正義	S35. 1	S53. 10	
事務	小田京子	S35. 4	S37. 5	
〃	斉藤松子	S36. 5	S38. 8	
〃	新谷文美夫	S36. 5	H 1. 3	
〃	斉藤繁雄	S36. 9	H 2. 3	
〃	植山勢子	S36. 9	S40. 4	
〃	宮川万里子	S37. 5	S39. 11	
技術	石黒 勉	S38. 4	S55. 11	
〃	井藤健三郎	S38. 4	S42. 1	
〃	真鍋 茂	S39. 4	S51. 11	
事務	松木喜一郎	S39. 5 S47. 5	S44. 6 S48. 4	第5代所長 (S47. 5. 1~S48. 4. 30)

技 術	布 施 舜 司	S39. 6	H 5. 3	
事 務	丸 谷 芳 夫	S39. 11	S42. 4	
技 術	勝 田 彰 二	S40. 4	S44. 6	
事 務	安 田 啓 子	S40. 5	S41. 4	
技 術	古 沢 富 志 雄	S40. 5	S52. 12	
事 務	植 山 勢 子	S41. 5	S47. 4	
”	阿 部 冥 裕	S42. 4	S46. 5	
”	大 方 美 正	S42. 11	S43. 4	第2代所長 (S42. 11. 1~S43. 4. 30) ※商工部長兼務
技 術	長 原 實	S42. 11	S43. 9	
事 務	遠 藤 一 成	S43. 5	S44. 1	第3代所長 (S43. 5. 1~S44. 1. 13) ※商工部長兼務
”	工 藤 富 雄	S44. 1	S47. 4	第4代所長 (S44. 1. 14~S47. 4. 30)
”	大 内 醇 一	S44. 7	S52. 5	
技 術	近 藤 均	S44. 9	S45. 3	
”	田 中 重 充	S44. 9 H12. 4	H 7. 3 H16. 3	
”	渡 辺 昇	S46. 4	H 4. 3	
”	中 西 敏	S46. 4	S47. 3	
” (窯業)	坂 東 成 光	S46. 4	H10. 3	
事 務	神 谷 高 次	S46. 7	S52. 12	
”	山 崎 園 枝	S47. 5	S49. 4	
”	井 澤 敬 子		S48. 9	
技 術	山 田 克 己	S48. 5	H22. 3	第12代所長 (H14. 4. 1~H22. 3. 31)
” (窯業)	品 田 則 章	S48. 5	H28. 3	H23. 4~再任用
事 務	浅 香 隆 平	S48. 5	S51. 5	第6代所長 (S48. 5. 1~S51. 4. 30)
”	大 西 秀 二	S48. 5	S52. 5	
”	中 井 啓 二 郎	S48. 8	H 2. 3	
”	玉 井 芳 枝	S49. 5	S51. 5	
技 術	堀 川 邦 男	S49. 5	H26. 3	第13代所長 (H22. 4. 1~H26. 3. 31)
”	加 藤 光 一	S51. 4	H23. 3	
事 務	西 野 重 夫	S51. 5	S56. 10	第7代所長 (S51. 5. 1~S56. 10. 21)
”	中 田 良 好	S51. 5	S55. 12	
”	茂 木 英 治	S52. 6	S56. 11	
技 術	及 川 俊 樹	S52. 7	H18. 3	
事 務	小 杉 一 夫	S52. 12	S54. 5	
”	中 瀬 博 志	S53. 4	S54. 6	
技 術	大 谷 卓 史	S53. 4	H 8. 3	
”	今 野 良 英	S54. 6	S58. 6	
事 務	古 田 辰 雄	S54. 6	S61. 3	

事務	西池 勲	S55. 3	S56. 7	
〃	大村 恵美子	S56. 2	S60. 3	
〃	村田 昭三	S56. 7	S58. 6	
〃	白米 恒夫	S56. 11	S61. 3	
技術	西田 光男	S58. 6	H 3. 3	
事務	笠原 敏子	S60. 4	S62. 3	
〃	佐藤 淳一	S61. 4	H 7. 3	
〃	長瀬 英一	S61. 4	H 2. 3	
〃	石前 ひさ子	S62. 4	H 2. 3	
〃	鴨川 友栄	H 2. 4	H 7. 3	
〃	金丸 和雄	H 3. 4	H 4. 3	
〃	亀井 勉	H 3. 4	H 6. 3	
技術	渡辺 顕久	H 4. 4	H13. 3	
事務	山田 耕司	H 4. 4 H23. 4	H11. 3 H24. 3	
〃	茂呂 多加支	H 4. 4	H 9. 3	
〃	植山 尚有	H 5. 4	H 7. 3	第9代所長 (H5. 4. 1~H7. 3. 31)
〃	田村 哲也	H 6. 4	H12. 3	
技術	後藤 哲憲	H 6. 4	H25. 3	
事務	九軒 勝志	H 7. 4	H10. 3	第10代所長 (H7. 4. 1~H10. 3. 31)
〃	羽佐間 一憲	H 7. 4	H11. 3	
〃	上樂 みち子	H 7. 4	H12. 3	
技術	上田 朋子	H 7. 4	H10. 3	
〃	青木 繁尚	H 8. 4	現職	
事務	長屋 成義	H 9. 4	H10. 3	
技術	小関 敬之	H 9. 4 H28. 4	H26. 3 現職	
事務	岩田 和視	H10. 4	H14. 3	第11代所長 (H10. 4. 1~H14. 3. 31)
〃	宮本 邦夫	H10. 4	H12. 3	
〃	坂本 和広	H10. 4	H12. 3	
技術	大谷 卓史	H10. 4	H12. 3	
事務	伊藤 克彦	H11. 4	H12. 3	
〃	小倉 栄	H11. 4 H21. 4	H14. 3 H23. 3	
〃	福谷 理夫	H11. 4	H15. 3	
〃	富居 香	H12. 4	H17. 3	
技術	田中 重充	H12. 4	H16. 3	
〃	西村 智也	H12. 4	H16. 3	
事務	大瀧 安洋	H12. 4	H27. 3	
〃	大川 和之	H13. 4	H19. 3	

事務	中村 修二	H14. 4	H18. 3	
〃	関口 希	H14. 4	H16. 6	
〃	川辺 英行	H15. 4	H16. 3	
〃	秋山 永	H16. 4	H29. 3	
〃	長谷川 香織	H17. 4	H24. 3	
〃	平山 誠	H18. 4	H21. 3	
〃	佐藤 亜沙美	H18. 4	現職	
〃	大上戸 透	H19. 4	H26. 3	
技能	松島 守	H19. 4	H20. 3	
事務	太田 良優	H22. 4	H25. 3	
〃	成田 一郎	H23. 4	H25. 3	
〃	八重樫 愉子	H24. 4	H26. 3	
〃	塩飽 大輔	H24. 4	H31. 3	
〃	高垣 勇一郎	H25. 4	H28. 3	
〃	千葉 甲	H25. 4	R 2. 3	
〃	羽川 友香	H25. 4	H29. 3	
〃	鈴木 三千仁	H26. 4 H31. 4	H27. 3 R 5. 3	第14代所長 (H26. 4. 1~H27. 3. 31) 第17代所長 (H31. 4. 1~R 5. 3. 31)
〃	猪川 達也	H26. 4	R 2. 3	
〃	山下 友子	H26. 4	H30. 3	
〃	三浦 雅仁	H27. 4	H30. 3	第15代所長 (H27. 4. 1~H30. 3. 31)
技術	宮本 亨	H28. 4	H29. 3	
事務	荒戸 貴弘	H29. 4	H31. 3	
〃	南雲 貴史	H29. 4	R 3. 3	
〃	逸見 昌子	H29. 4	H30. 3	
〃	有馬 有志	H30. 4	H31. 3	第16代所長 (H30. 4. 1~H31. 3. 31)
〃	成田 万里子	H30. 4	R 4. 3	
〃	柴 安澄	H30. 4	R 7. 3	
〃	野澤 早織	H31. 4	現職	
技術	千葉 将壽	R 2. 4	現職	
事務	久保 康典	R 3. 4	R 4. 3	
技術	稲垣 啓	R 4. 4	現職	
事務	佐橋 智弘	R 4. 4	R 6. 3	
〃	内田 和博	R 5. 4	現職	第18代所長 (R5. 4. 1~現在に至る)
〃	佐原 聖二郎	R 6. 4	現職	
〃	高橋 啓範	R 7. 4	現職	

令和8年3月現在